

令和5年度 岐阜県 道徳教育指導資料

豊かな心を育む

道徳教育



成長を実感し、 意欲の向上につながる道徳科の評価

- 学校教育全体で道徳教育を推進するには、どうすればよいのだろう。
- 道徳教育を核にしたカリキュラム・マネジメントとは、どうすればよいのだろう。
- 1時間の道徳科の授業を構想するときに、大切なことは何だろう。
- 道徳科における「指導と評価の一体化」は、どのように考えればよいのだろう。

令和5年度 岐阜県 道徳教育指導資料

令和6年3月発行

編集発行 岐阜県教育委員会 義務教育課

〒500-8570 岐阜県岐阜市藪田南2-1-1

TEL 058-272-1111 (代表)

令和6年3月
岐阜県教育委員会 義務教育課

1 道徳科における評価

1 学習評価の意義

学習における評価とは、児童生徒にとっては、自らの成長を実感し意欲の向上につなげていくものであり、教師にとっては、指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるものです。教育において指導の効果を上げるためには、指導計画の下に、目標に基づいて教育実践を行い、指導のねらいや内容に照らして児童生徒の学習状況を把握するとともに、その結果を踏まえて、学校としての取組や教師自らの指導について改善を行うサイクルが重要です。

小・中学校学習指導要領（平成29年3月告示）総則においては、学習評価の充実について新たな項目が置かれ、具体的には、学習評価の目的等について次のように示されています。

児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。

(小学校学習指導要領 第1章 総則 第3 教育課程の実施と学習評価 2 学習評価の充実)
(中学校学習指導要領にも同旨)

道徳教育における評価も、常に指導に生かされ、結果的に児童生徒の成長につながるものでなくてはなりません。他者との比較ではなく児童生徒一人一人のよい点や進歩の状況などを把握し、年間や学期にわたって児童生徒がどれだけ成長したのかという視点を大切にすることが重要です。

このことから、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育における評価については、教師が児童生徒一人一人の人間的な成長を見守り、児童生徒自身の自己のよりよい生き方を求めていく努力を評価し、それを勇気付ける働きをもつようにすることが求められています。そして、それは教師と児童生徒の温かな人格的な触れ合いに基づいて、共感的に理解されるべきものであるといえます。

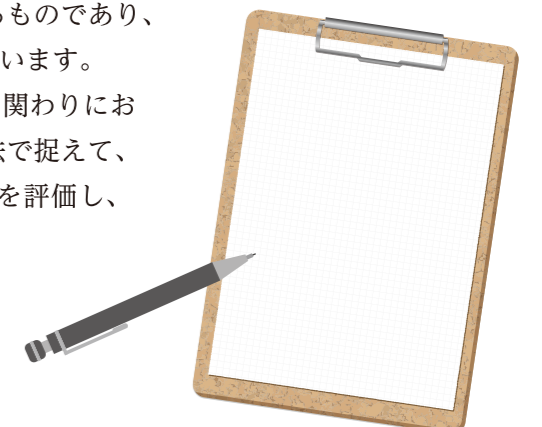
また、道徳科の評価については、学習指導要領において次のように示されています。

児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

(小学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳 第3 指導計画の作成と内容の取扱い 4)
(中学校学習指導要領にも同旨)

道徳科において養うべき道徳性は、児童生徒の人格全体に関わるものであり、数値などによって不用意に評価してはならないことを特に明記しています。

こうした点を踏まえ、それぞれの授業における指導のねらいとの関わりにおいて、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を様々な方法で捉えて、個々の児童生徒の成長を促すとともに、それによって自らの指導を評価し、改善に努めることが大切です。



目次

1 道徳科における評価	1
2 実践事例	
(1) 小学校	
① 低学年・第1学年	6
内容項目：B-(9) 友情、信頼 教材名：「二わのことり」(光村図書「どうとく① きみがいちばんひかるとき」)	
② 中学年・第3学年	10
内容項目：D-(18) 生命の尊さ 教材名：「ヌチヌグスー ジー命の祭り」 (光村図書「どうとく③ きみがいちばんひかるとき」)	
③ 高学年・第6学年	14
内容項目：C-(15) 家族愛、家庭生活の充実 教材名：「ぼくの名前呼んで」(光村図書「道徳⑥ きみがいちばんひかるとき」)	
(2) 中学校	
① 第1学年	18
内容項目：C-(10) 遵法精神、公德心 教材名：「仏の銀蔵」(光村図書「中学道徳① きみがいちばんひかるとき」)	
② 第2学年	22
内容項目：A-(4) 希望と勇気、克己と強い意志 教材名：「夢の力」(光村図書「中学道徳② きみがいちばんひかるとき」)	
③ 第3学年	26
内容項目：B-(6) 思いやり、感謝 教材名：「背番号10」(光村図書「中学道徳③ きみがいちばんひかるとき」)	
3 道徳教育パワーアップ実践校 実践事例紹介	
(1) 恵那市立長島小学校	32
<研究主題> 自己の生き方についての考えを深める子の育成 ～学び合いを通して考えを深める道徳授業を軸として～ ・研究内容1 年間指導計画における目指す児童の姿の明確化 ・研究内容2 生き方について学び合い、考えを深める道徳授業の在り方 ・研究内容3 家庭や地域と連携し、「三学の精神 志教育」の充実	
(2) 美濃加茂市立東中学校	40
<研究主題> 自分を見つめ、よりよい生き方を求める生徒の育成 ・研究内容1 確かな自己理解につなぐ指導の工夫 ・研究内容2 個の変容や学びの深まりを見届ける評価の工夫 ・研究内容3 日常や道徳科の学習を関連させ、教育活動全体を通して道徳性を育む実践の実施	
■ 情報提供	47
(1) 文部科学省「道徳教育アーカイブ」	
(2) 岐阜県教育委員会HP「ぎふっこ学び応援サイト」・「豊かな心を育む」	
(3) 岐阜県道徳教育振興会議「一家庭一ボランティア」運動	

2 道徳科における児童生徒の学習状況及び成長の様子についての評価

道徳科の評価の考え方については、「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」第5章第2節に示されています（中学校も同様）。まとめると、次の通りです。

- ・数値による評価ではなく、記述式とすること。
- ・個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること。
- ・他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかにか成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うこと。
- ・学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること。
- ・発達障害等のある児童生徒が抱える学習上の困難さの状況等を踏まえた指導及び評価上の配慮を行うこと。
- ・調査書に記載せず、入学者選抜の可否判定に活用することのないようにすること。

評価の基本的な考え方と個人内評価としての見取り

児童生徒の評価について、内面的資質である道徳性がどのように養われたか否かは、授業のみで容易に判断できるものではないことから、評価の対象となるのは、児童生徒の道徳性ではなく、道徳性を養うための学習状況です。学習状況を適切に把握するに当たって、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度のそれぞれについて分節し、学習状況を分析的に捉える観点別評価を通じて見取ろうとすることは、道徳科の評価としては妥当ではありません。そのため、学習状況の評価について「観点」ではなく、「視点」という言葉が、「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」の中で用いられています。

児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子をどのように見取り、記述するかということについては、学校や児童生徒の実態に応じて、学習指導過程や指導方法の工夫と併せて適切に考える必要があります。

児童生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうかという点については、例えば、道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしていることや、自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしていること、複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしていることを発言や感想文、質問紙の記述等から見取るという方法が考えられます。

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうかという点についても、例えば、読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしていることに着目したり、現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目したりするという視点も考えられます。また、道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めているかや、道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしているかという視点も考えられます。

また、児童生徒が、教師や他の児童生徒の発言に聞き入ったり、考えを深めようとしたりしている姿に着目するなど、発言や記述ではない形で表出する児童生徒の姿に着目することも重要になります。

さらに、年間や学期を通じて、当初は感想をそのまま書いていただけであった児童生徒が、学習を重ねていく中で、登場人物に共感したり、自分なりに考えを深めた内容を書くようになっていたりすることや、既習の内容と関連付けて考えている場面に着目するなど、児童生徒が一定の期間を経て、多面的・多角的な見方へと発展していたり、道徳的価値の理解が深まったりしていることを見取るという視点もあります。

ここに挙げた視点は例示であり、道徳科の評価の趣旨を理解した上で、学校の状況や児童生徒の状況を踏まえた評価を工夫することが求められています。

3 道徳科の授業に対する評価

道徳科においても、教師が自らの指導を振り返り、指導の改善に生かしていくことが大切であり、授業の評価を改善につなげる過程を一層重視する必要があります。

授業に対する評価の基本的な考え方

授業に対する評価と改善を行う上で、学習指導過程や指導方法を振り返り評価し、その評価を授業の中で更なる指導に生かすことが重要になります。明確な意図をもって指導の計画を立て、授業の中で予想される具体的な児童生徒の学習状況を想定し、授業の振り返りの観点をもつことで、指導と評価の一体化が実現することになります。

道徳科の学習指導過程や指導方法に関する評価の観点はそれぞれの授業によって、より具体的なものとなりますが、その観点としては、次のようなものが考えられます。

- ア 学習指導過程は、道徳科の特質を生かし、道徳的(諸)価値の理解を基に自己を見つめ、自己(人間として)の生き方について考えを深められるよう適切に構成されていたか。また、指導の手立てはねらいに即した適切なものとなっていたか。
 - イ 発問は、児童(生徒)が(広い視野から)多面的・多角的に考えることができる問い、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど、指導の意図に基づいて的確になされていたか。
 - ウ 児童(生徒)の発言を傾聴して受け止め、発問に対する児童(生徒)の発言などの反応を、適切に指導に生かしていたか。
 - エ 自分自身との関わりで、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考えさせるための、教材や教具の活用は適切であったか。
 - オ ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるための指導方法は、児童(生徒)の実態や発達の段階にふさわしいものであったか。
 - カ 特に配慮を要する児童(生徒)に適切に対応していたか。
- (「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編」より抜粋、()内は中学校)

評価を指導の改善に生かす工夫と留意点

児童生徒の道徳性を養う質の高い授業を創造するためには、学習指導過程や指導方法の改善に役立つ多面的・多角的な評価を心掛ける必要があります。また、道徳科の授業で児童生徒が伸びやかに自分の感じ方や考え方を述べたり、他の児童生徒の感じ方や考え方を聞いたり、様々な表現ができたりするのは、日々の学級経営と密接に関わっています。

また、児童生徒の道徳性に係る成長の様子に関する評価においては、慎重かつ計画的に取り組む必要があります。道徳科は、児童生徒の人格そのものに働きかけるものであるため、その評価は安易なものであってはなりません。児童生徒のよい点や成長の様子などを積極的に捉え、それらを日常の指導や個別指導に生かしていくよう努めなくてはならないといえます。



2 実践事例

(1) 小学校

- ① 低学年・第1学年 6
内容項目：B-(9) 友情、信頼
教材名：「二わのことり」(光村図書「どうとく① きみがいちばんひかるとき」)
- ② 中学年・第3学年 10
内容項目：D-(18) 生命の尊さ
教材名：「ヌチヌグスージー命の祭り」(光村図書「どうとく③ きみがいちばんひかるとき」)
- ③ 高学年・第6学年 14
内容項目：C-(15) 家族愛、家庭生活の充実
教材名：「ぼくの名前呼んで」(光村図書「道徳⑥ きみがいちばんひかるとき」)

(2) 中学校

- ① 第1学年 18
内容項目：C-(10) 遵法精神、公德心
教材名：「仏の銀蔵」(光村図書「中学道徳① きみがいちばんひかるとき」)
- ② 第2学年 22
内容項目：A-(4) 希望と勇気、克己と強い意志
教材名：「夢の力」(光村図書「中学道徳② きみがいちばんひかるとき」)
- ③ 第3学年 26
内容項目：B-(6) 思いやり、感謝
教材名：「背番号10」(光村図書「中学道徳③ きみがいちばんひかるとき」)



主題構成表

■内容項目
B-(9) 友情、信頼
友達と仲よくし、助け合うこと。

■価値の分析

- ・友達関係は、共に学んだり、遊んだりすることを通して、互いに影響し合って構築される。
- ・児童にとって、友達関係は最も重要な人間関係の一つである。
- ・よりよい友達関係を築くには、互いを認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、協力し、助け合い、信頼感や友情を育てていくことが大切である。
- ・友達と仲よく活動することのよさや楽しさ、助け合うことの大切さを実感できるようにすることが重要である。

■内容項目から見た児童の実態

- ・休み時間にお互いに誘い合っ
て一緒に遊んでいる。
- ・困っている友達がいると進ん
で助けようとしている。
- ・友達の立場を理解することが
難しく、自分本位の発言をし
たことでトラブルになること
が多い。
- ・一緒に遊んでいた友達を置いて、
自分の都合を優先してしま
い、友達を悲しい思いにさ
せてしまうことがある。

■要因

- ・発達の段階において、幼児期
の自己中心性から十分に脱し
ておらず、友達の立場を理解
することが難しい。
- ・友達のことを考えて行動した
ときに相手が喜んでくれたと
いう経験がまだ少ない。

■教材の分析

- ・友達の気持ちや立場を考えた
行動をとることで、自分も友
達も嬉しい気持ちになること
に気づき、これからも友達の
気持ちや立場を考えた行動を
とろうという心情を育てるこ
とのできる教材である。
- ・友達のやまがらの誕生日に呼
ばれたみそさざいは、迷いな
がらも他の鳥たちと音楽の稽
古のために梅林の中のうぐい
すの家に行く。自分の都合や、
他人に同調してしまう心の弱
さに気付くことができるよう
にしたい。
- ・友達のやまがらのことが気にか
かり、音楽の稽古を抜け出
して山奥のやまがらの家に向
かうと、やまがらは涙を流
して喜んでくれた。友達の
ことを考えて行動したことで
相手が喜び、喜んでくれた姿
を見て自分も嬉しくなること
に気付くことができるように
したい。

■ねらい
友達のことを考えて行動すると、自分も相手も明るく楽しく生活できることに気づき、友達と仲よく、助け合っ
ていこうとする心情を育てる。

■展開の構想

- ・友達がいてよかったと思う体験を想起させる。
- ・みそさざいが、明るくてごちそうのあるうぐいすの家に行くか、一人さびしく誕生日を過ごすやまがらの家に行くか迷う気持ちに気付く。
- ・目に涙を浮かべて喜ぶやまがらを見たみそさざいの気持ちを考え、友達のことを考えて行動することのよさに気付く。
- ・友達のことを考えて、仲よくし、助け合うことがよい友達関係を作るために大切であると気づき、明日からの自分の生活を考える。

■基本発問 (◎中心発問)

- 友達がいてよかったと思うのは、どんな時ですか。
- うぐいすさんの家で、他の小鳥たちと話しているとき、みそさざいさんはどんな気持ちでしょう。
- ◎目に涙を浮かべたやまがらさんを見て、みそさざいさんはどんな気持ちになったでしょう。
- みそさざいさんや、やまがらさんのように、友達っていいなと思ったことはありませんか。

授業構想の手順

ポイント

1 「価値の分析」

本時で扱う内容項目について、授業者が特に大切にしたいことを学習指導要領解説等を基に明らかにします。

■内容項目

B-(9) 友情、信頼
友達と仲よくし、助け合うこと。

【内容項目について大切にしたいこと】

友達と一緒に活動して楽しかったことや友達と助け合ってよかったことを考え、友達と仲よく助け合っ
ていこうとする心情を育てること。

ポイント

2 「実態と要因の分析」

「価値の分析」を基にした児童生徒の実態と授業者の願いから、指導の要点を明らかにします。



【児童の実態と要因】

- よさ：困っている友達がいると進んで助けようとしている。
- 課題：一緒に遊んでいた友達を置いて、自分の都合を優先してしまい、友達を悲しい思いにさせてしまうことがある。
- 要因：幼児期の自己中心性から十分に脱しておらず、友達の立場を理解することが難しい。

【実態から育成したいこと】

友達のことを考えて、自分から仲よくし、助け合っ
ていこうとする心情。

ポイント

3 「教材の分析」

考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているかを検討します。

●実態と要因から中心的に取り上げたい場面●

やまがらの家へみそさざいが来て、やまがらが喜ぶ場面。

あ ら す じ

- ・友達のやまがらの誕生日に呼ばれたみそさざいは、迷いながらも他の鳥たちと音楽の稽古のために梅林の中のうぐいすの家に行く。
- ・友達のやまがらのことが気にかかり、音楽の稽古を抜け出して山奥のやまがらの家に向かうと、やまがらは涙を流して喜んでくれた。

ポイント

4 「考え、議論したいこと」

「価値」「実態と要因」「教材」の分析を受け、**考え、議論したいこと**を明確にします。

● 考え、議論したいこと ●

友達の立場や気持ちを考え、仲良くすることの大切さ。

5 「ねらい」の設定

【ねらい】

友達のことを考えて行動すると、自分も相手も明るく楽しく生活できることに気づき、友達と仲よく、助け合っ
ていこうとする心情を育てる。



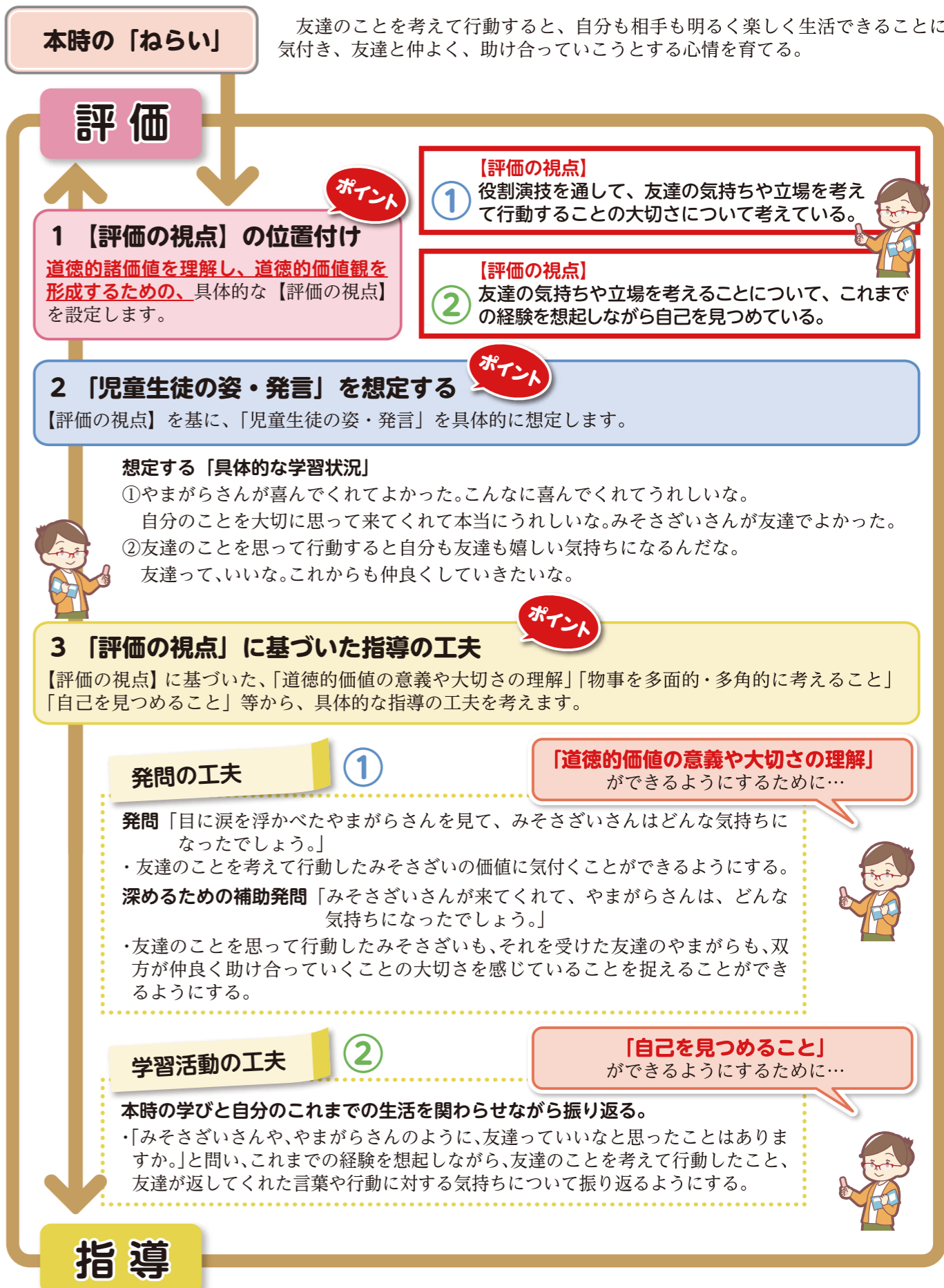
6 「本時の展開の構想」

指導方法の工夫

・「発問の工夫」・「学習活動の工夫」など

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	<p>1 教材に関心をもち、課題を確認する。</p> <p>○友達がいよかったと思うのは、どんな時ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に遊ぶ時 ・話を聞いてくれる時 ・やさしくしてもらった時 ・助けてもらった時 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達がいよかったと思う体験を想起させることで、友達と仲よくするためには何が大切なのかを考え、これまでの自分の友だちとの関わり方について振り返ることを確認する。
展開	<p>2 範読を聞き、友達のことを考えた行動について話し合う。</p> <p>○うぐいすさんの家で他の小鳥たちと話しているとき、みそさざいさんはどんな気持ちでしょう。</p> <p><役割演技></p> <p>教師(他の小鳥) 「こちらへ来てよかったね。」</p> <p>児童(みそさざい) ・うん！ ・うーん、そうかなあ…。</p> <p>教師(他の小鳥) 「楽しくなさそうだけど、何を考えているの？」</p> <p>児童(みそさざい) ・やまがらさんは、今どうしているのかと思って…。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やまがらさんが、お誕生日なのに、一人でさびしがっていないか気になっているんだよ。 ・やまがらさんの気持ちを考えると楽しくないんだ。 <p>◎目に涙を浮かべたやまがらさんを見て、みそさざいさんはどんな気持ちになったでしょう。</p> <p><役割演技></p> <p>教師(やまがら) 「みそさざいさんが来てくれて嬉しいよ。」</p> <p>児童(みそさざい) ・やまがらさんが喜んでくれてよかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さびしい思いをさせてごめんね。 <p>教師(やまがら) 「どうして私のところに来てくれたの。」</p> <p>児童(みそさざい) ・やまがらさんが、さびしい思いをしているんじゃないかと思って。私だって、一人じゃさびしいもん。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒にお祝いをした方が、やまがらさんも私も楽しい気持ちになるからだよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本教材の場面が理解できるよう、範読前に登場人物の説明をしたり、挿絵を黒板に位置付けたりする。 ・「みそさざいのちょっと残念だと思うところ、すごいと思うところを見つけましょう。」と範読を聞く視点を示し、人間理解と価値理解の場面を見つけられるようにする。 ・明るい雰囲気の家やごちそうがあること、他の小鳥たちもいることなどから、うぐいすの家に来てよかったと思うみそさざいの気持ちや、やまがらが誕生日を一人寂しく過ごしていると思うと心から楽しめない気持ちを表出できるよう、教師対全員で役割演技を行う。 ・全員が役割演技を終えた後、全体で交流する。教師と指名した児童で役割演技を行い、自分の意見と似ているか違うかを聞き、ハンドサインで示すようにする。 ・友達のことを考えて行動したことで相手が喜び、喜んでくれた友達を見て自分も嬉しくなる気持ちを感じられるよう、役割演技を教師対全員で行う。 ・「どうして私のところに来てくれたの。」と問いかけて、友達のことを考えて行動したみそさざいの価値に気付くことができるようにする。 ・「みそさざいさんが来てくれて、やまがらさんは、どんな気持ちになったでしょう。」と補助発問をし、友達のことを思って行動したみそさざいも、それを受けた友達のやまがらも、双方が嬉しい気持ちになっていることに気付くことができるようにする。
前段階	<p>【深めるための補助発問】</p> <p>みそさざいさんが来てくれて、やまがらさんは、どんな気持ちになったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私の気持ちを分かってくれて本当にうれしいな。 ・一緒にお祝いしてくれて、仲良くしてくれてうれしいな。 ・仲良くしてくれる友達っていいな。 	<p>【評価の視点】</p> <p>役割演技を通して、友達の気持ちや立場を考えて行動することの大切さについて考えている。 ①</p>
展開後	<p>3 自分自身を振り返り、これまでの生活について考える。</p> <p>○みそさざいさんや、やまがらさんのように、友達っていいなと思ったことはありますか。</p> <p>・休み時間に一人でいたら、友達が声をかけてくれて一緒に遊んだよ。みんなで一緒に遊べるととても嬉しかったし、友達っていいなって思ったよ。</p> <p>・「一緒に遊ぼう」って誘ったら、「誘ってくれてありがとう」って言われて、自分も嬉しくなったよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経験を想起しやすいように、教師が把握している事例を紹介する。 ・友達のことを考えて行動したこと、友達が返してくれた言葉や行動に対する気持ちについて振り返るようにする。 <p>【評価の視点】</p> <p>友達の気持ちや立場を考えることについて、これまでの経験を想起しながら自己を見つめている。 ②</p>
終末	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の気持ちを考えて行動してよかったと思う教師の体験談を語り、自分も友達と仲よくしようとする意欲を高める。

指導と評価の一体化



主題構成表

■内容項目
D-(18) 生命の尊さ
生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。

■価値の分析

- ・生命の大切さは、どれだけ強調してもし過ぎることはない。全ての道徳性は、生命が大切にされてはじめて成り立つものだからである。
- ・生命を大切に尊重することは、かけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直に応えようとする心の表れといえる。生命の尊さを、概念的な言葉で理解するとともに、自己との関わりで、生きることの素晴らしさや生命の尊さを考え、自覚を深められるようにする。
- ・この段階においては、現実性をもって死を理解できるようになる。今ある自分の生命は、遠い先代から受け継がれてきたものであるという不思議さや雄大さに気付くなど、生命の尊さを感じ得るよう指導することが重要である。

■内容項目から見た児童の実態

- ・生命は唯一無二であることや大切にしなければいけないことは知っており、大切にしようとしている。
- ・生命が大切であると知っているものの、生きていることが当たり前だと考えていて、行動が伴わないことが多い。
- ・自分の生命は自分だけのものだと思っている。

■要因

- ・生命は大切であると知識では知っているが、生命や生命がなくなることについてじっくりと考える機会が少ない。
- ・生命はかけがえのないものである、自分の生命は多くの人々の支えによって、守り育てられている尊いものであるという捉えが弱い。
- ・自分と先祖のつながりを意識できるのは祖父母までであるため、その前からずっと受け継がれているという意識までには至っていない。

■教材の分析

- ・主人公のコウちゃんと島のオバアの会話を通して、生命の不思議さを感じたり、その雄大さに驚いたりする中で、受け継がれていく生命を大切にしようとする心情を育てることができる教材である。
- ・島のオバアから、生命は数えきれないほどのご先祖様があり、一人でも欠けたら今の自分はいないという話を聞く場面で、生命の不思議さや雄大さに気付くことができるようにしたい。
- ・オバアの話聞いたコウちゃんは、空に向かって高く手をふり、大きな声で「命をありがとう！」と言う。生命をつなぎ支えてきてくれた全ての人に対する感謝の気持ちに気付くことができるようにしたい。
- ・自分の生命は過去とも未来ともつながっていて、生命をつなぎ支えてきてくれた全ての人に感謝し、自分の生命を慈しむ心情を育てていきたい。

■ねらい
今の自分の生命は過去とも未来ともつながっていることに気付き、生命をつなぎ支えてきてくれた全ての人に感謝し、自分の生命を慈しむ心情を育てる。

■展開の構想

- ・本時の教材に関わる「命のつながり」について想起させる。
- ・生命の不思議さや雄大さについて自分との関わりで考える。
- ・生命をつなぎ支えてきてくれた全ての人に対する感謝の気持ちに気付かせ、自分との関わりで考える。
- ・生命のつながりについて考えることで、自分の生命も多くの先祖や祖父母、父母とのつながりの中で、今現在、生きているということを実感できるようにする。

■基本発問 (◎中心発問)

- 「ご先祖様」と言われると、どんな人たちが頭に浮かびますか。
- ◎「へえ、ぼくの命ってすごいんだね。」と言ったとき、コウちゃんは、どんなことを思っていたでしょう。
- 「命をありがとう！」という言葉には、コウちゃんのどんな気持ちが込められているでしょう。
- 今日のお話を通して、「命のつながり」について考えたことを書きましょう。

授業構想の手順

ポイント

1 「価値の分析」

本時で扱う内容項目について、授業者が特に大切にしたいことを学習指導要領解説等を基に明らかにします。

■内容項目

D-(18) 生命の尊さ
生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。

【内容項目について大切にしたいこと】

今ある自分の生命は、遠い先代から受け継がれてきたものであるという不思議さや雄大さに気付くなど、生命の尊さを感じ得ること。

ポイント

2 「実態と要因の分析」

「価値の分析」を基にした児童生徒の実態と授業者の願いから、指導の要点を明らかにします。



【児童の実態と要因】

- よさ：生命は唯一無二であることや大切にしなければいけないことは知っており、自分の生命を大切にしようとしている。
- 課題：生きていることが当たり前だと考えていて、行動が伴わないことが多い。
- 要因：生命は大切であると知識では知っているが、生命や生命がなくなることについてじっくりと考える機会が少ない。

【実態から育成したいこと】

自分の生命は過去とも未来ともつながっていて、生命をつなぎ支えてきてくれた全ての人に感謝し、自分の生命を慈しむ心情。

ポイント

3 「教材の分析」

考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているかを検討します。

●実態と要因から中心的に取り上げたい場面●

コウちゃんが、「へえ、ぼくの命ってすごいんだね。」と言った場面。

あ ら す じ

- ・コウちゃんは、島の人たちが墓の前で行っているお祭りを見て驚く。
- ・島のオバアから、自分には数えきれないほどのご先祖様があり、一人でも欠けたら今の自分はいないという話を聞く。
- ・オバアの話聞いたコウちゃんは、空に向かって高く手をふり、大きな声で「命をありがとう！」と言う。

ポイント

4 「考え、議論したいこと」

「価値」「実態と要因」「教材」の分析を受け、**考え、議論したいこと**を明確にします。

● 考え、議論したいこと ●

生命はつながっていること、誰一人欠けても、自分が生まれないこと、これからもつながっていくことなど、生命の不思議さや雄大さについて。

5 「ねらい」の設定

【ねらい】

今の自分の生命は過去とも未来ともつながっていることに気付き、生命をつなぎ支えてきてくれた全ての人に感謝し、自分の生命を慈しむ心情を育てる。



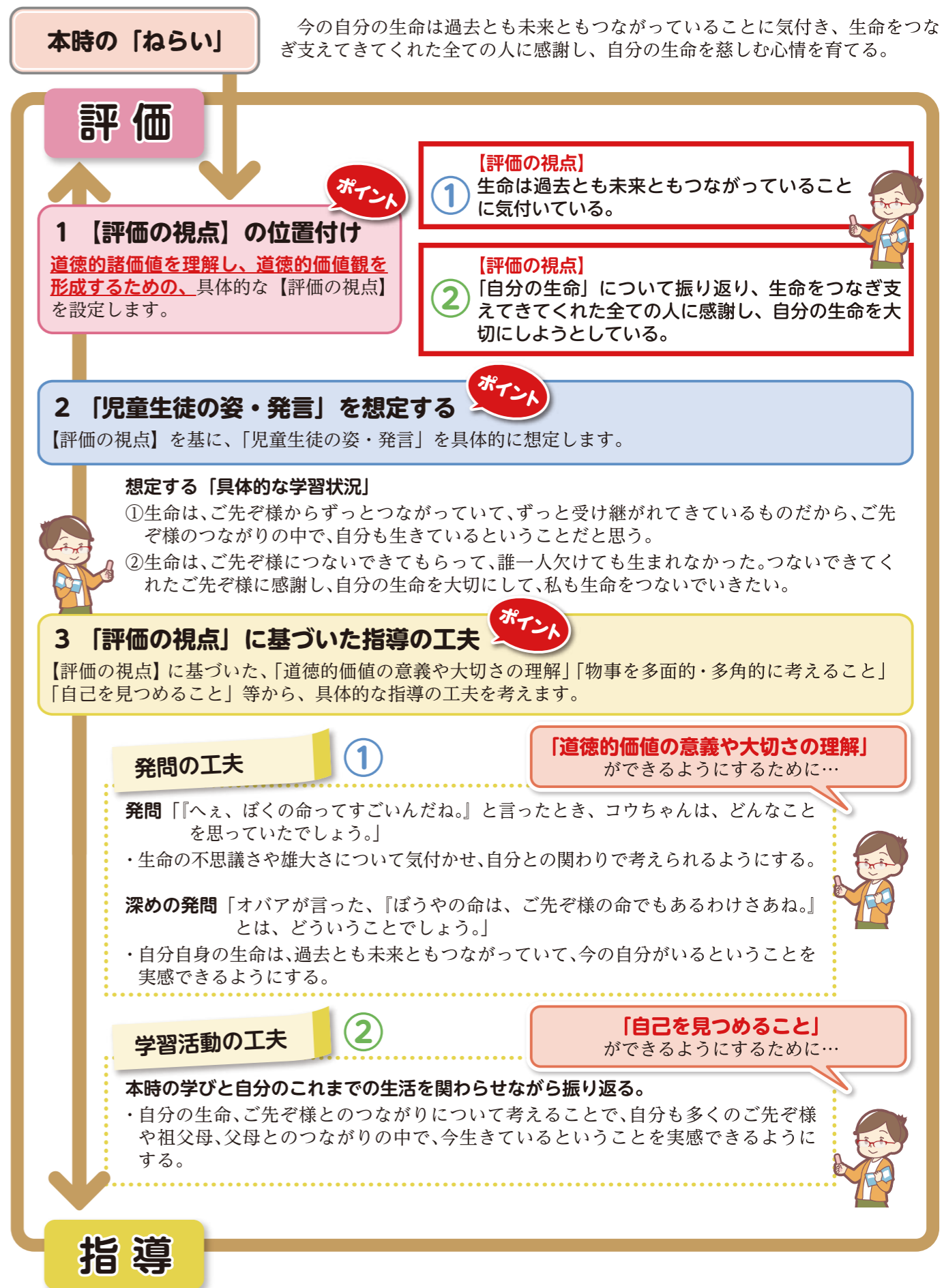
6 「本時の展開の構想」

指導方法の工夫

・「発問の工夫」・「学習活動の工夫」など

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	<p>1 「ご先祖様」という言葉について、想起したことを発表する。</p> <p>○「ご先祖様」と言われると、どんな人たちが頭に浮かびますか。</p> <p>・ ぼくのおじいちゃんのもっと前のおじいちゃん。</p> <p>・ 昔の自分の親戚。</p>	<p>・ 「ご先祖様」という言葉を知らない児童がいた場合、お墓参りや仏壇のことなどの話をする。</p> <p>・ 「ご先祖様とは、祖父の祖父くらい前の人という感じですね。会ったことも見たこともないですが、他人ではなく、あなたとつながっている人ですね。」と補説する。</p>
展開	<p>2 教材「ヌチヌグスージ 命の祭り」を読み、話し合う。</p> <p>○このお話からどんなことを感じましたか。</p> <p>・ 自分には、たくさんのご先祖様がいることがわかって、お父さんもお母さんも、生命をくれたすべての人がご先祖様だと分かってすごいと思った。</p> <p>・ 生命がつながっていることが不思議だと思った。</p> <p>◎「へえ、ぼくの命ってすごいだね。」と言ったとき、コウちゃんは、どんなことを思っていたでしょう。</p> <p>・ 数えきれないご先祖様とぼくの生命はつながっていた。</p> <p>・ 今のぼくの生命は、ご先祖様の誰一人欠けても、生まれてこなかったんだ。</p> <p>【深めるための補助発問】 オバアが言った、「ぼうやの命は、ご先祖様の命でもあるわけさあね。」とは、どういうことでしょう。</p>	<p>・ 生命について「不思議」「すごい」という視点で感想を交流し、感想を生かして基本発問につないでいく。</p> <p>・ 生命の不思議さや雄大さについて以下の4つについて気付かせ、自分との関わりで考えられるようにする。</p> <p>①ご先祖様の生命とつながっている。(過去)</p> <p>②誰一人欠けても、自分が生まれぬ。(過去)</p> <p>③これからもつながっていく。(未来)</p> <p>④自分だけの生命ではない。(過去、今、未来)</p> <p>・ 生命のつながりについて、児童の捉えが弱いと感じた場合は、「深めるための補助発問」をすることで、自分自身の生命は、過去とも未来ともつながっていて、今の自分がいるということを実感できるようにする。</p>
前段	<p>【評価の視点】 生命は過去とも未来ともつながっていることに気付いている。①</p> <p>・ ご先祖様からずっとつながっていて、ずっと受け継がれてきているものだから、自分だけのものではないということだと思ふ。</p> <p>○「命をありがとう！」という言葉には、コウちゃんのどんな気持ちが込められているのでしょうか。</p> <p>・ ご先祖様ありがとう。つないできてくれた僕の生命、これからも大切にします。</p> <p>・ ぼくも生命をつないでいきます。</p>	<p>【評価の視点】 生命は過去とも未来ともつながっていることに気付いている。①</p> <p>・ 生命をつなぎ支えてきてくれた全ての人に対する感謝の気持ちに気付かせ、自分との関わりで生命のつながりについて考えられるようにする。</p>
後段	<p>3 本時の学習を振り返る。</p> <p>○今日のお話を通して、「生命のつながり」について考えたことを書きましよう。</p> <p>・ 私の生命は、ご先祖様につないできてもらって、誰一人欠けても生まれなかった。つないできてくれたご先祖様に感謝し、自分の生命を大切にしたい。私も生命をつないでいきたい。</p>	<p>・ 自分の生命、ご先祖様とのつながりについて考えることで、自分も多くのご先祖様や祖父母、父母とのつながりの中で、今生きているということを実感できるようにする。</p> <p>【評価の視点】 「自分の生命」について振り返り、生命をつなぎ支えてきてくれた全ての人に感謝し、自分の生命を大切にしようとしている。②</p>
終末	<p>4 教師の説話を聞く</p>	<p>・ 命について書かれた本を紹介する。</p>

指導と評価の一体化



指導

主題構成表

■内容項目
C-(15) 家族愛、家庭生活の充実
父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること。

■価値の分析

- 家庭を構成する家族一人一人についての理解を深めていくことで、現在の自分の存在が父母や祖父母から受け継がれてきたものであることを実感し、自分の成長を願って無私の愛情で育ててくれたかけがえのない存在である家族に対して敬愛する心が一層強くなる。
- 家族が互いの立場を尊重しながら家族に貢献することの大切さに気付いていくようになると、児童自身も家族の中での自分の立場や役割を自覚できるようになる。
- 日常生活の中で、家族が何かをしてくれることに対しては、当然のことと考えるのではなく、自分の成長を願って愛情をもって育ててくれた家族に対して、尊敬や感謝を込めて家族の幸せのために自分には何が貢献できるのかを考えることが大切である。

■内容項目から見た児童の実態

- 家族への感謝の気持ちを日常生活の中で抱いている児童は多いが、その多くは「ご飯を作ってもらえるから」といった家族の自分への行為に対するものがほとんどであり、「自分の成長を願ってくれている」といった家族の自分に対する思いや願いに対しては、深く考えていない。
- 手伝いをしている児童も多いが、家族に言われてやることが多く、自分なりにできることで家庭生活に貢献しようという意識は弱い。

■要因

- 家族が自分のために何かをしてくれることに対して、当然のことと考えているため、家族の自分に対する思いや願いについて深く考える経験が少ない。
- 手伝いは、「しなければならないもの」と考えており、家族のために役に立ちたいという意識が弱い。

■教材の分析

- 家族が自分の成長を願って無私の愛情で育ててくれていることに気付き、家族愛について考えが深められる教材である。
- 太郎がけんか相手から「やあい、おまえ、父ちゃん母ちゃんから、一度も名前呼ばれたことないだろう。」と言われ、涙が込み上げてきた。家に帰り、泣き叫びながら「ぼくの名前呼んで。」と父親に訴える。からかわれたことに対する怒りや悲しみではなく、自分の家族に対して満たされない部分があることへの悲しみに共感できるようにしたい。
- 太郎の思いを知り、父親は太郎が生まれた時の思いや、太郎にこれからどのように生きてほしいのかを手話で語る。父親の心の底からほとぼり出るような手話を見て、太郎が考える以上に両親が自分のことを大切に思っていたことを知り、家族が深い信頼関係で結ばれていることに気付くことができるようにしたい。

■ねらい
家族は自分の成長を願って無私の愛情をくれるかけがえのない存在であることに気付き、家族との信頼関係を大切にし、家族の幸せに貢献しようとする心情を育てる。

■展開の構想

- 家族の大切さについて実感した場面を確認する。
- 障がいのある家族と共に生きる登場人物たちの気持ちを想像し、家族の結び付きの強さを考える。
- 家族が自分のことを大切に思ってくれていると知り、家族と自分とが深い信頼関係で結ばれていることに気付く。
- 家族の幸せについて考え、自分も家族の一員として家族の幸せに貢献していくことが大切であると気付く。

■基本発問 (◎中心発問)

- 家族と過ごす中でうれしかったことはありますか。
- ぶつかるように父親にしがみつ、声を上げて泣いている太郎は、どんな気持ちだったのでしょうか。
- ◎父の手話から両親の思いを知った太郎は、どんな気持ちになったのでしょうか。
- 家族との関わりについて、これまでの自分を振り返ってみましょう。

授業構想の手順

ポイント

1 「価値の分析」

本時で扱う内容項目について、授業者が特に大切にしたいことを学習指導要領解説等を基に明らかにします。

■内容項目

C-(15) 家族愛、家庭生活の充実
父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること。

【内容項目について大切にしたいこと】

自分の成長を願って愛情をもって育ててくれた家族に対して、尊敬や感謝を込めて家族の幸せのために自分には何が貢献できるのかを考えること。

ポイント

2 「実態と要因の分析」

「価値の分析」を基にした児童生徒の実態と授業者の願いから、指導の要点を明らかにします。



【児童の実態と要因】

- よさ：家族への感謝の気持ちを日常生活の中で抱いている児童は多い。
- 課題：家族の自分に対する思いや願いに対しては、深く考えていない。家庭生活に貢献しようという意識が弱い。
- 要因：家族が自分のために何かをしてくれることに対して、当然のことと考えている。手伝いは、「しなければならないもの」と考えており、家族のために役に立ちたいという意識が弱い。

【実態から育成したいこと】

家族は自分のために何かをしてくれる存在ではなく、互いに成長を願って愛情をかけ合う存在であることに気付き、家族との信頼関係を大切に、家族の幸せに貢献しようとする心情。

ポイント

3 「教材の分析」

考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているかを検討します。

●実態と要因から中心的に取り上げたい場面●

太郎が父の心の底からほとぼり出るような手話を、まばたきもせずに見つめている場面。

あらすじ

- ・太郎の両親には、聴覚障がいと言語障がいがある。
- ・太郎はけんか相手から「両親から一度も名前を呼ばれたことがない」という事実を突きつけられ、今までに感じたことのない寂しさ、言いようのない切なさにおそわれ、その思いを父親に訴える。
- ・父親は太郎が生まれた時の思いや、太郎にこれからどのように生きてほしいのかを手話で語る。父親の心の底からほとぼり出るような手話を見て、太郎が考える以上に両親が自分を大切に思っていたことを知り、家族が深い信頼関係で結ばれていることに気付く。

ポイント

4 「考え、議論したいこと」

「価値」「実態と要因」「教材」の分析を受け、**考え、議論したいこと**を明確にします。

●考え、議論したいこと●

家族は自分のために何かをしてくれる存在ではなく、自分の成長を願って育ててくれていることに対して、尊敬や感謝を込めて、自分には何ができるのかを考えること。

5 「ねらい」の設定

【ねらい】

家族は自分の成長を願って無私の愛情をくれるかけがえのない存在であることに気付き、家族との信頼関係を大切に、家族の幸せに貢献しようとする心情を育てる。



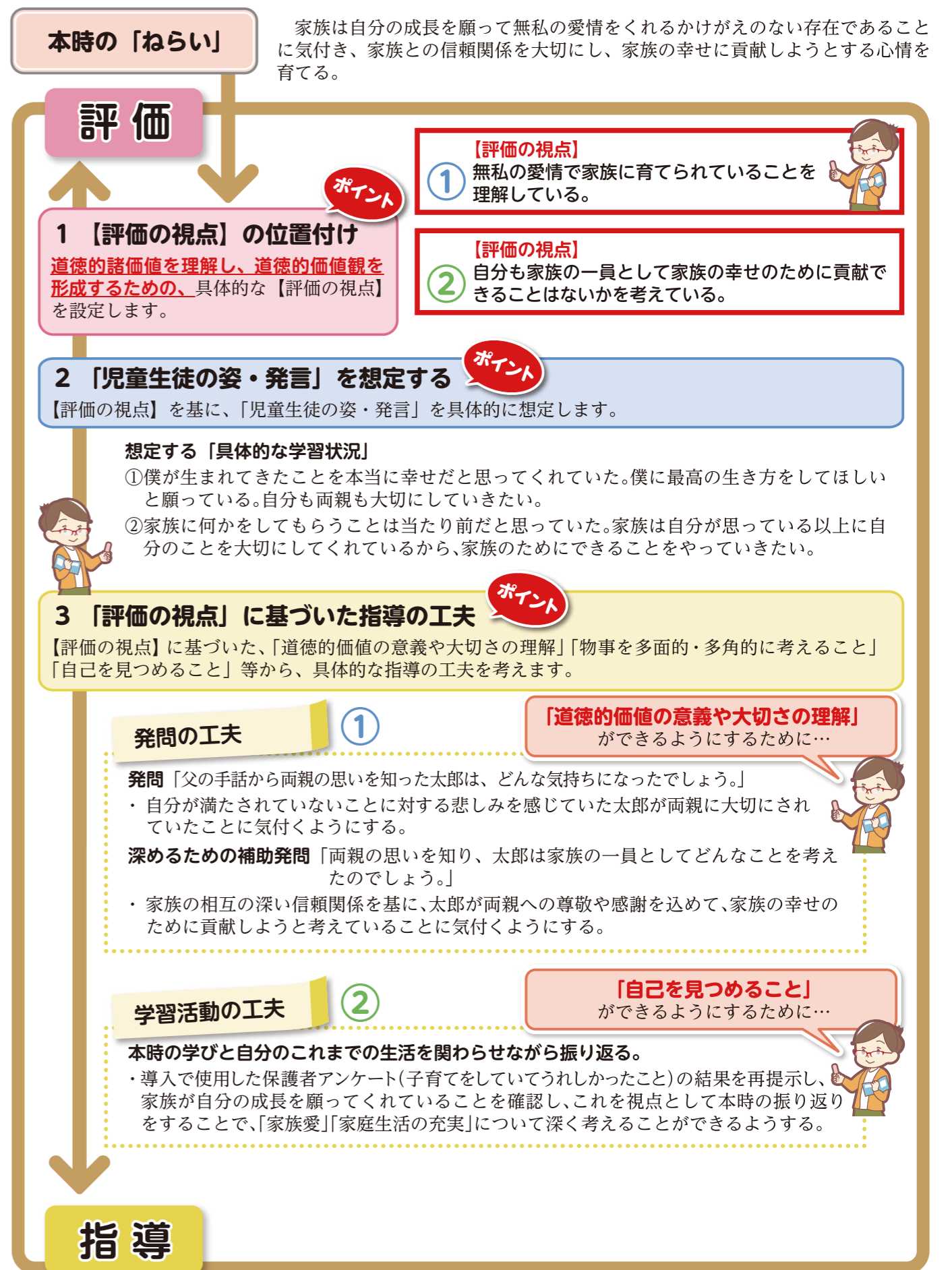
6 「本時の展開の構想」

指導方法の工夫

・「発問の工夫」・「学習活動の工夫」など

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	<p>1 教材に関心をもち、課題を確認する。</p> <p>○家族と過ごす中でうれしかったことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつも忙しいのに、ご飯を作ってくれること。 ・上手にできたときに、ほめてくれたこと。 ・困ったときに相談にのってくれて、解決できたこと。 ・誕生日にプレゼントをくれたり、家族みんなでお祝いをしてくれたりしたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート(子育てをしていてうれしかったこと)の結果を提示し、保護者と自分たちの家族に対する価値観の違いに気付かせ、本時の価値への方向付けを行う。
展開	<p>2 範読を聞き、主人公の家族への気持ちの変化を話し合う。</p> <p>○ぶつかるように父親にしがみつき、声を上げて泣いている太郎は、どんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のみんなは名前を呼んでもらうのは当たり前なのに、どうして自分は名前を呼んでもらえないのだろう。 ・僕も名前を呼んでほしい。 ・これから名前を呼んでもらえないと思うとさびしい。 ・僕だけが名前を呼んでもらったことがないと思うと悲しい。 ・両親は僕のことを大切にしてくれているのだろうか。 <p>◎父の手話から両親の思いを知った太郎は、どんな気持ちになったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕が生まれてきたことを、本当に幸せだと思ってくれていたことがうれしい。 ・名前を呼ばれなくても、両親は僕のことを心から大切に思ってくれている。僕はかけがえのない家族の一人なんだ。 ・両親も僕の泣き声が聞けなくて悲しい思いをしていた。僕よりも大きな悲しみを感じていたのではないかな。 <p>【深めるための補助発問】 両親の思いを知り、太郎は家族の一員としてどんなことを考えたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕もお父さん、お母さんと同じように、最高の生き方をしていきたい。 ・両親が僕のことを大切に思ってくれるように、僕も家族のみんなを大切にしていきたい。 ・両親が僕を大切に育ててくれたように、僕も家族を大切に幸せを届けられるように家族のために何かしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が範読をする際に、児童に太郎の家族に対する思いで「わかるなあ」と思うところを見付けるように投げかける。そうすることで、人間理解や価値理解に迫るための視点を焦点化する。 ・太郎にとってこの出来事は、からかわれたことに対する怒りや悲しみではなく、自分の家族に対して満たされない部分があることへの悲しみであることに気付かせ、価値理解につなげる。 ・両親からの深い愛情があることに気付いていない場合は、「両親に対してどう思っているの。」と問いかける。 ・「深めるための補助発問」では、太郎に伝わった父の思いを確認する。児童が「最高の生き方」に触れた際には、必要に応じてその具体について問い返し、太郎の家族に対する思いの変化について考えさせる。 <p>【評価の視点】 無私の愛情で家族に育てられていることを理解している。 ①</p>
展開	<p>3 本時の学習を振り返る。</p> <p>○家族との関わりについて、これまでの自分を振り返ってみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族は私のことを大切に思ってくれていると思います。だからこそ、そんな家族のためにも私ができることを見付けていくことが大切だと思います。 ・今までは、家族に何かをしてもらうことは当たり前だと思っていました。今日の学習を通して、家族はいつも私のことを思ってくれていると感じました。私も家族の一員として、家族のためにできることを考え、役に立てるようになりたいと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入で使用した保護者アンケート(子育てをしていてうれしかったこと)の結果を再提示して、家族が自分の成長を願ってくれていることを確認し、これを視点として振り返りができるようする。 <p>【評価の視点】 自分も家族の一員として家族の幸せのために貢献できることはないかを考えている。 ②</p>
終末	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・祖父母も両親と同じように自分のことを大切に思ってくれていることに気付く説話をする。

指導と評価の一体化



主題構成表

■内容項目
C- (10) 遵法精神、公德心
法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。

■価値の分析

- 「法やきまり」は、集団に秩序を与え、摩擦を最小限にするものであることや、社会の秩序と規律を守ることによって、個人の自由が保障されるということを理解することが大切である。また、法やきまりについては、その遵守とともに、一人一人が当事者として関心をもつことが大切であり、適正な手続きを経てこれらを変えることも含め、その在り方について考えることが必要である。
- 「遵法精神」は、公德心によって支えられているものである。
- 「公德心」とは、社会生活の中で守るべき正しい道としての公德を大切にすることである。
- 他人の権利を尊重し、自分の権利を正しく主張するとは、互いの権利の主張が調和し両立できるようにすることである。

■内容項目から見た生徒の実態

- 学校で決められているきまりを守る生徒がほとんどである。しかし、なぜそのルールがあるのかを考えることなく、ルールだから守ると、法やきまりを他律的に捉えている生徒が多い。
- 日常生活の中で、自分の権利は主張するものの、義務を果たさない生徒や、相手のことを考えず行動してしまう生徒もいる。

■要因

- きまりについて、決められた意図は考えることなく、きまりは守るものだと受容してきたことや、きまりを守ることによって、互いの権利の主張が調和し、両立でき、互いが気持ちよく生活できることに気が付いていない。

■教材の分析

- 法やきまりのよりよい在り方について考えることを通して、自らに課せられた義務を果たすことが、結果として規律ある安定した社会の実現に貢献することにつながることを気付くことができる教材である。
- 主人公(銀蔵)は、生活に苦しむ農民や職人たちに金を貸しては高い利子をつけてもうけていたが、銀蔵がカラスに証文を奪われ、証文をなくしたことで取り立てができなくなった。取り立てがなくなった人々に目を向け、少しくらいなら法やきまりを守らなくてもよいという気持ちが誰にでもあることに気付くことができるようにしたい。
- 最初にごまかそうとしていた人々が、銀蔵が生活に苦しんでいる様子を見て、一人また一人と借金を返し始める。人々が変容した理由を考えることを通して、法やきまりの意義について考えることができるようにしたい。

■ねらい
法やきまりのよりよい在り方について考えることを通して、自らに課せられた義務を果たすことが、結果として規律ある安定した社会の実現に貢献することになることに気づき、みんなが気持ちよく生活できるようにルールを守ろうとする実践意欲と態度を育てる。

■展開の構想

- ルールについて考えることで、本時の価値への方向付けをする。
- 少しくらいなら法やきまりを守らなくてもよいという気持ちが誰にでもあることに気付く。
- 人々が借金を返し始めたことを通して、どうしてルールを守るのがかという意義や、ルールはみんなが守らないと安心して生活ができないことに気付くことで、道徳的価値に迫る。
- 道徳的価値から視点を与えて自己を見つめる。

■基本発問 (◎中心発問)

- 身の回りにはどんなルールがありますか。また、そのルールを守るのはなぜでしょう。
- 人々は、証文がなくなったことを知り、どんなことを思ったでしょう。
- ◎人々が借金を返し始めたのはどうしてでしょう。
- 「ルールを守るのはなぜか」について「これまでの自分」「今の自分」「これからの自分」という視点で振り返り自己を見つめましょう。

授業構想の手順

ポイント

1 「価値の分析」

本時で扱う内容項目について、授業者が特に大切にしたいことを学習指導要領解説等を基に明らかにします。

■内容項目

C- (10) 遵法精神、公德心
法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。

【内容項目について大切にしたいこと】

ルールはみんなのためにあること、自らに課せられた義務を果たすことが、結果として規律ある安定した社会の実現に貢献することになることに気づき、みんなが気持ちよく生活できるようにルールを守ろうとする実践意欲と態度を育てること。

ポイント

2 「実態と要因の分析」

「価値の分析」を基にした児童生徒の実態と授業者の願いから、指導の要点を明らかにします。



【生徒の実態と要因】

- よさ：学校で決められているきまりを、守る生徒がほとんどである。
- 課題：日常生活の中で、自分の権利は主張するものの、義務を果たさない生徒や、相手のことを考えず行動してしまう生徒もいる。
- 要因：決められたきまりの意図を考えることなく、きまりは守るものだと受容してきたことや、自分の周りに対する意識の無さが挙げられる。

【実態から育成したいこと】

自らに課せられた義務を果たすことが、結果として規律ある安定した社会の実現に貢献することになることに気づき、みんなが気持ちよく生活できるようにルールを守ろうとする実践意欲や態度。

ポイント

3 「教材の分析」

考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているかを検討します。

●実態と要因から中心的に取り上げたい場面●

人々が一人また一人と借金を返し始めた場面。

あ ら す じ

- ・主人公(銀蔵)は、生活に苦しむ農民や職人たちに金を貸しては高い利子をつけてもうけていた。
- ・ある日、主人公(銀蔵)がカラスに証文を奪われ、証文をなくしたことで取り立てができなくなった。
- ・最初にごまかそうとしていた人々が、主人公(銀蔵)が生活に苦しんでいる様子を見て、一人また一人と借金を返し始める。

ポイント

4 「考え、議論したいこと」

「価値」「実態と要因」「教材」の分析を受け、**考え、議論したいこと**を明確にします。

● 考え、議論したいこと ●

自分のことだけを考えて決まりを守らないのではなく、自らに課せられた義務を果たすことが、結果として規律ある安定した社会の実現に貢献することになることの大切さ。

5 「ねらい」の設定

【ねらい】

法やきまりのよりよい在り方について考えることを通して、自らに課せられた義務を果たすことが、結果として規律ある安定した社会の実現に貢献することになることに気づき、みんなが気持ちよく生活できるようにルールを守ろうとする実践的意欲と態度を育てる。



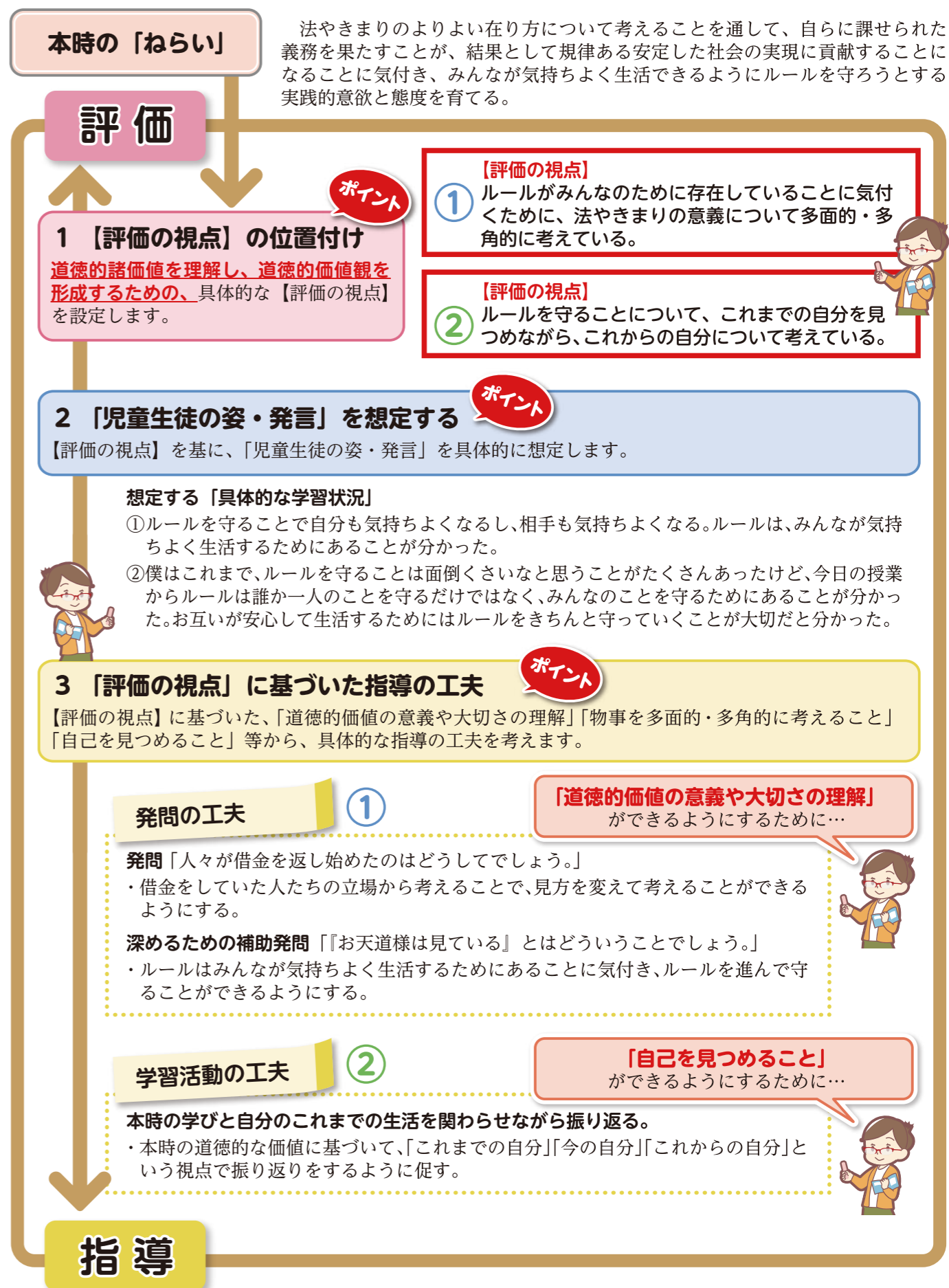
6 「本時の展開の構想」

指導方法の工夫

・「発問の工夫」・「学習活動の工夫」など

	基本発問と予想される生徒の反応	指導・援助
導入	1 価値に関わる自分の行動や考えを振り返る。 ○身の回りにはどんなルールがありますか。また、そのルールを守るのはなぜですか。 ・校則 ・提出物を出す ・ヘルメットをかぶる ・廊下を走らない ・スリッパを揃える ・怒られないため ・きまりがあるから	・世の中には多くのルールがあることに目を向け、知らないうちに多くのルールを守っていることを実感できるようにする。また、ルールを守ることの意義に目を向けさせ、本時の価値への方向付けをする。
	2 教材「仏の銀蔵」を読み、話し合う。 ○人々の言動で「分かるな」と「いいな」と思ったところはどこですか。 ・証文がなくなったことを知り、借金をごまかそうしたり、ほっとしたりしているところは分かる。 ・証文がなくなったのに、借金を返し始めたところはいいな。 ○人々は、証文がなくなったことを知り、どのようなことを思ったでしょう。 ・高い利子だから助かった。 ・証拠がなくなったので返さなくてもよくなった。ありがたい。 ・これで逃れられるぞ。 ・からすのおかげだ。 ◎人々が借金を返し始めたのはどうしてでしょう。 ・借りたものは返さないといけなから。 ・借金を返さないと自分がすっきりしないから。 ・約束を守らないのは、自分を裏切ったようだから。 ・銀蔵が困っているから。 ・自分はよくても、銀蔵が嫌な思いをするから。 ・約束を守ることで、自分も銀蔵もよい気持ちになるから。	・人々の言動の中で、「分かるな」(人間理解の場面)「いいな」(価値理解の場面)の部分に線を引くよう促し、その反応から基本発問や中心発問につなげる。 ・借金をしたら、返すことが法律(ルール)で決まっていることを押さえる。 ・証文がなくなったことを知り、借金をごまかそうとしている人々の多様な考え方や感じ方を引き出し、板書で整理する。 ・多様な考え方を交流する中で、多面的・多角的に自分の考えを深める場を位置付ける。 ・自分の意見と近いものに手を挙げ、ルールにはいろいろな側面があることを理解できるようにする。自分のために行っていることでも結果的にみんなのためになっていることに気付くことができるようにする。 ・本時のねらいに関わる価値観を板書で整理し、自分の考えのほかに確かにそうだと思う考えを見つけ、発表し合う。 ・「深めるための補助発問」をすることで、ルールはみんなが気持ちよく生活するためにあることに気付き、ルールを進んで守ることができるようにする。
展開	【深めるための補助発問】 「お天道様は見ている」とはどういうことでしょうか。	【評価の視点】 ルールがみんなのために存在していることに気付くために、法やきまりの意義について多面的・多角的に考えている。①
	3 本時の学習を振り返る。 ○ルールを守るのはなぜかについて、「これまでの自分」「今の自分」「これからの自分」という視点で振り返り自己を見つめましょう。 僕はこれまで、ルールを守ることは面倒くさいなど思うことがたくさんあったけど、今日の授業からルールは誰か一人のことを守るだけでなく、みんなのことを守るためにあることが分かった。だから、お互いが安心して生活するためにはルールをきちんと守っていくことが大切だと分かった。	・本時の道徳的な価値に基づいて、「これまでの自分」「今の自分」「これからの自分」という視点で振り返りをするように促す。 【評価の視点】 ルールを守ることに、これまでの自分を見つめながら、これからの自分について考えている。②
終末	4 教師の説話を聞く。	・ルールは自分たちがつくったものであり、それを守っていくことの大切さを伝えていく。

指導と評価の一体化



主題構成表

■内容項目
A-(4) 希望と勇気、克己と強い意志より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。

■価値の分析

- ・「より高い目標」とは、現実をよりよくしようとする気持ちから設定するものである。「希望」は、自分で思い描いたあるべき姿、よりよい状態の実現を願う気持ちであり、「勇気」は、自分が正しいと思うことをやり遂げようとする積極的な気力である。自分自身で目標を設定し、その達成を目指すことは、日々の生活や人生を充実したものにする。
- ・目標の実現には様々な困難を乗り越えなくてはならず、困難や失敗を受け止めて希望と勇気を失わない前向きな姿勢や強い意志、失敗にとらわれない柔軟でしなやかな思考が求められる。
- ・目標の実現に向け、挑戦することから逃げないで努力し続ける姿勢が大切である。

■内容項目から見た生徒の実態

- ・自分の興味があることや、日常生活の中の小さな目標については、達成に向けて素直に努力できる。
- ・将来に向けた大きな目標については、意欲をもって目標を立てるものの、達成に向けて努力を継続できなかったり、失敗や困難に直面した際に、諦めて安易な選択をしてしまったりする。

■要因

- ・挫折や失敗を悪いことのように捉えていたり、挫折や失敗することを恐れたりしている。
- ・挫折や失敗を見ないようにしたり、それらを回避しようとしていたりする。

■教材の分析

- ・リオデジャネイロパラリンピック車いすテニス日本代表・二條実穂選手の半生から、困難や失敗を乗り越えて挑戦し続けることの大切について考えることができる教材である。
- ・一度、夢を掴みかけた主人公が、事故により、これまで当たり前前にできていたことができなくなる。車いすテニスの存在を知り、新たな夢をもって困難に立ち向かっていく。
- ・挫折や困難を乗り越えて、新しい夢をもち、努力した主人公の思いや「夢の力」について考え、夢や目標をもつことは、困難を乗り越えるための原動力であることに気付くことができるようにしたい。
- ・今後の自分の生き方において、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げていこうとする実践意欲や態度につなげたい。

■ねらい
挫折や失敗を恐れず、夢や目標を叶えたり達成したりしようとする強い気持ちが、困難や失敗を乗り越える力になっていくことに気づき、目標の実現に向けて努力し続けようとする実践意欲や態度を育てる。

■展開の構想

- ・事前アンケートから価値に関わる自分の状況や考えを見つめる。
- ・夢を実現できそうだった主人公だったが、事故により車いす生活になってしまった挫折時の気持ちについて考える。
- ・「車いすテニスでパラリンピックに出場して金メダル」という新しい夢に向かって行動できるのはどうしてなのか、諦めなかった主人公の気持ちについて考える。
- ・自分の生活を見つめ、自己を振り返るとともに、これからの自分の生き方について考える。

■基本発問 (◎中心発問)

- 夢や目標に関わるアンケートの結果を見つめよう。
- 現場での事故により車いす生活になってしまった時、どんな思いが込み上げてきたでしょう。
- ◎何度も困難や苦しいことがあったのに、どうしてこんなにも頑張ることができたのでしょう。
- 夢や目標に向けた自己の行動を振り返り、これからの自分について考えよう。

授業構想の手順

ポイント

1 「価値の分析」

本時で扱う内容項目について、授業者が特に大切にしたいことを学習指導要領解説等を基に明らかにします。

■内容項目

A-(4) 希望と勇気、克己と強い意志より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。

【内容項目について大切にしたいこと】

設定した目標の達成を目指して、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げていこうとする実践意欲や態度を育てること。

ポイント

2 「実態と要因の分析」

「価値の分析」を基にした児童生徒の実態と授業者の願いから、指導の要点を明らかにします。



【生徒の実態と要因】

- よさ：自分の興味があることや、日常生活の中の小さな目標については、達成に向けて素直に努力できる。
- 課題：将来に向けた大きな目標について、意欲をもって目標を立てるものの、達成に向けて努力を継続できなかったり、失敗や困難に直面した際に安易な選択をしてしまったりする。
- 要因：目標の実現に向けた取組の中で、挫折や失敗を恐れて安易な選択をしたり、挫折や失敗を悪いことのように捉え、挫折や失敗を見ないようにしたり、それらを回避しようとしていたりする。

【実態から育成したいこと】

夢や目標を叶えたり達成したりしようとする強い気持ちが、困難や失敗を乗り越える力となり、目標の実現に向け、挑戦することから逃げないで努力し続けようとする実践意欲や態度。

ポイント

3 「教材の分析」

考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているかを検討します。

・実態と要因から中心的に取り上げたい場面・

二條選手が、夢をもち頑張ることができた理由を考える場面。

あ ら す じ

- ・中学生の時は、ソフトテニス部で練習に励む。将来の職業は決めていないが、家や部屋のインテリアに興味がある。
- ・高校生の時に、物作りと建築に対する思いが強まり、建築について学ぶ専門学校へ進学する。専門学校卒業後に、建築会社に就職して大工になり、棟梁として現場を任される。しかし、棟梁となり大工としての人生を始めた矢先、現場での作業中の転落事故により、その日から車いす生活になる。
- ・車いすテニスの存在を知り、パラリンピックへの出場を目指す。

ポイント

4 「考え、議論したいこと」

「価値」「実態と要因」「教材」の分析を受け、**考え、議論したいこと**を明確にします。

・ 考え、議論したいこと

目標の実現に向け、失敗や困難に直面することはあるが、その目標を叶えたり達成したりしようとするには、どのようなことが大切なのかについて。

5 「ねらい」の設定

【ねらい】

挫折や失敗を恐れず、夢や目標を叶えたり達成したりしようとする強い気持ちが、困難や失敗を乗り越える力になっていくことに気づき、目標の実現に向けて努力し続けようとする実践意欲や態度を育てる。



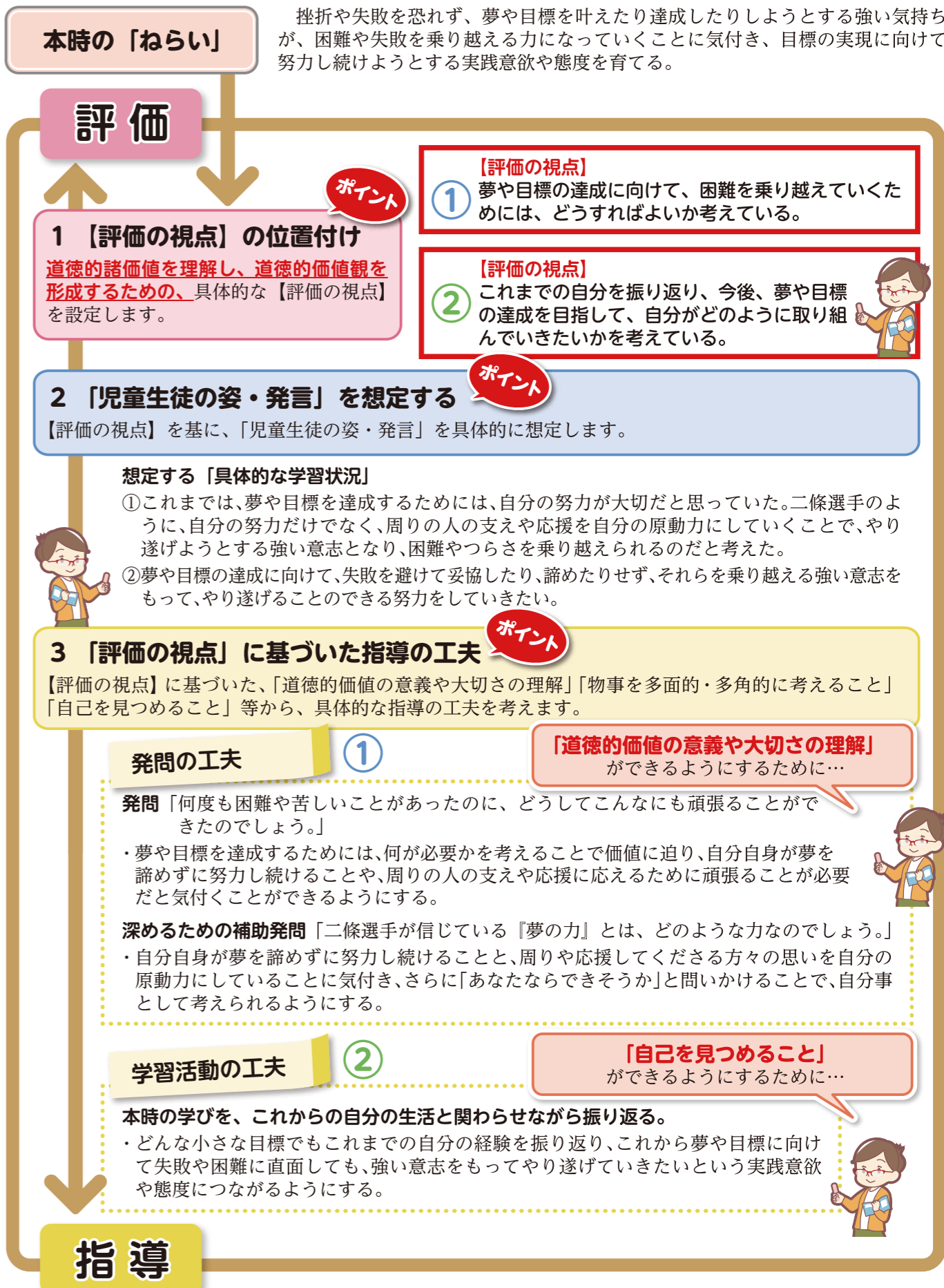
6 「本時の展開の構想」

指導方法の工夫

・「発問の工夫」・「学習活動の工夫」など

	基本発問と予想される生徒の反応	指導・援助
導入	<p>1 価値に関わる自分の状況や考えを見つめる。</p> <p>○夢や目標に関わるアンケートの結果を見てください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢や目標がある。 ・近い将来の目標はあるが、将来の大きな夢はない。 ・夢は、いつも意識して目標にするもの。 ・夢を叶えるためには、努力することが大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケート(「夢や目標はあるか」「夢とはどんな存在か」「夢を叶えるために大切なことは何か」)の結果を提示し、一人一人の状況や多様な考えがあることを確認し、本時の学習に臨むことができるようにする。
展開	<p>2 教材「夢の力」を読み、話し合う。</p> <p>○二條選手の気持ちが分かるころ、すごいと思うところはどこでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・けがした時のつらい気持ちが分かる。 ・車いす生活になってもあきらめないところ。 ・2回も夢を叶えているところ。 ・つらさを力に変えて、行動できるところ。 <p>○現場での事故により車いす生活になってしまった時、どんな思いが込み上げてきたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きていることが苦しい。 ・努力してきたのに悔しい、悲しい。 ・今までできていたことができなくなり、つらい。 ・大工としての自分への期待に応えられず、申し訳ない。 <p>◎何度も困難や苦しいことがあったのに、どうしてこんなにも頑張ることができたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢を諦めずに努力しているから。 ・夢を持ち続けることが、自分を強くしてくれるから。 ・応援してくれている人に恩返しをしたいから。 ・支えてくれる人を裏切ることはいかないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を読む前に、二條選手の「気持ちが分かる」「すごい」と思ったところを見つけるように投げかけ、人間理解と価値理解に迫るための視点を焦点化する。 ・二條選手が大工の夢を実現したにもかかわらず、事故によって続けることができなくなってしまったことや、その時のつらい思いについて考え、仲間と交流することを通して、二條選手への共感的な理解を促す。 ・何度も困難や苦しいことがあったが、頑張ることができている理由を考えることで、人間理解から価値理解へとつなげる。 ・「深めるための補助発問」をすることで、二條選手が、夢を諦めずにもち続けることや、周りの支えだけでなく、応援してくれている方々の思いを「困難を乗り越えてやり遂げようとする“原動力”」にしていることに気付くことができるようにする。 ・「あなたはできそうか」と問い返し、自分事として捉えられるようにする。
前段	<p>【深めるための補助発問】</p> <p>二條選手が信じている「夢の力」とは、どのような力なのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな目標に向けて、今できることに、コツコツと精一杯取り組んでいく力。 ・困難や失敗があっても、あきらめないで、自分の目標の達成に向けて、夢をもち続ける力。 ・応援してくれている人の思いも自分の夢の力になっている。 	<p>【評価の視点】</p> <p>夢や目標の達成に向けて、困難を乗り越えていくためには、どうすればよいか考えている。①</p>
後段	<p>3 本時の学習を振り返る。</p> <p>○夢や目標に向けた自己の行動を振り返り、これからの自分について考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は、これまで目標は立てても、達成することが難しいと思って諦めたり、「このくらいでいいかな」と妥協したりしていました。これからは、目標を達成するという強い意志をもって、失敗や困難があっても、頑張り続けていこうと思いました。 ・夢を実現するためには、周りの支えや応援だけでなく、それを自分自身の力に変えて努力をすることが大切だと思いました。 	<p>【評価の視点】</p> <p>これまでの自分を振り返り、今後、夢や目標の達成を目指して、自分がどのように取り組んでいきたいかを考えている。②</p>
終末	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夢の実現に向けて、努力し続けたこと(努力し続けていること)を紹介する。小さな目標であっても、やり遂げようとする意志が大切であることについて話をします。

指導と評価の一体化



主題構成表

■内容項目
B-(6) 思いやり、感謝
思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。

■価値の分析
・「思いやり」の心は、自分が他者に能動的に接する時に必要な心の在り方である。根底には人間尊重の精神に基づく人間に対する深い理解と共感が必要である。
・「感謝」の心は、主として他者から受けた思いやりに対する人間としての心の在り方である。根底で支えているのは、互いの感謝の心であり、人がおのずと感謝の念を抱くのは、他者の思いやりに触れそれを有り難いと感じ、素直に受け止められたときである。
・互いをかけがえのないものとして受け止め、経験を基に様々な価値と関わらせ、人間愛の精神を思いやりと感謝の心を通して具現化していくことが重要である。

■内容項目から見た生徒の実態
・親切にするとよいことが明らかかな状況では、誰に対しても親切にすることができる。
・思いやりや感謝の心をもって、その気持ちを行動で表したり伝えたりすることには積極的ではない。
・自分の思い通りにならない状況や、自分の思いにそぐわない考えや状況においては、相手に対して思いやりの心をもって接することや周囲に感謝の心を抱くことができない。

■要因
・相手との人間関係の深さによって、恥ずかしさや疎ましが勝ったり、利己的、自己中心的な思いを押し付けてしまったりして、相手の思いを尊重できない。
・思いやりや感謝の心が大切だとは理解していても、かけがえのない他者を尊重する心や、周囲の人々に有り難さを感じる心を基盤とした思いやりや感謝の心、態度に至っていない。

■教材の分析
・自分の焦りや苛立ちから、周囲に思いやりや感謝の心をもつことができなかつた主人公の心情の変化を通して、周囲への思いやりと感謝について考えることのできる教材である。
・主人公は野球の大会で負けてしまい、チームメートを叱責してしまう。利己的、自己中心的に思いを押し付け、相手の気持ちや状況を押し量れない人間の弱さを共感的に理解することができるようにしたい。
・自分の状況が変わり、チームメートへの関わり方が変わっていく。相手の思いを尊重することの大切さや、他者の存在の有り難さに気付くことができるようにしたい。
・深々と頭を下げた主人公と、拍手を送るチームメートの思いを考えるを通して、互いの存在を認め合い、そのおかげで今日があることへの感謝や、感謝するからこそ、相手のためになることをしようという心構えについて考えることができるようにしたい。

■ねらい
利己的、自己中心的な弱さを乗り越え、相手の思いを尊重することの大切さや他者の存在の有り難さに気付き、互いの存在を尊重して感謝したり、感謝するからこそ思いやりの心で接しようとする実践意欲や態度を育てる。

■展開の構想
・「思いやり」についての考えを問い、本時の価値への方向付けをする。
・利己的、自己中心的に思いを押し付け、相手の気持ちや状況を押し量れない人間の弱さを共感的に理解する。
・相手の思いを尊重することの大切さや他者の存在の有り難さに気付く。
・互いの存在への感謝や、感謝するからこそ思いやりの心で接しようという心構えについて考えることができる。
・本時考えたことを基に、今までの自分を振り返り、周囲に対して、「思いやりの心をもって行動する」とき、何が大切なのかを考える。

■基本発問 (◎中心発問)
○「人を思いやる」とはどういうことでしょうか。
○思うように動いてくれないチームメートに対して、僕はどのような気持ちだったのでしょうか。
○「自分にできること」をし始めた僕は、チームメートに対してどのような思いになっていったのでしょうか。
◎「深々と頭を下げた」僕はどのような思いだったのだろうか。
○「思いやりの心をもって行動する」とき、何が大切なのかを見つめましょう。

授業構想の手順

ポイント

1 「価値の分析」

本時で扱う内容項目について、授業者が特に大切にしたいことを学習指導要領解説等を基に明らかにします。

■内容項目

B-(6) 思いやり、感謝
思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。

【内容項目について大切にしたいこと】

互いをかけがえのないものとして受け止め、人間愛の精神を思いやりと感謝の心を通して実践していくこと。

ポイント

2 「実態と要因の分析」

「価値の分析」を基にした児童生徒の実態と授業者の願いから、指導の要点を明らかにします。



【生徒の実態と要因】

- よさ：親切にするとよいことが明らかかな状況では、誰に対しても親切に接することができる。
- 課題：思いやりや感謝の気持ちを行動で表したり伝えたりすることには積極的ではない。また、自分の思い通りにならない状況や、自分の思いにそぐわない考えや状況では、相手に対して思いやりの心をもって接することや、周囲に感謝の心を抱くことができない。
- 要因：相手によって、利己的、自己中心的な思いを押し付けてしまい、思いを尊重できない。また、かけがえのない他者を尊重する心や、周囲の人々に有り難さを感じる心を基盤とした思いやりや感謝の心、態度に至っていない。

【実態から育成したいこと】

互いの存在を認め合い、そのおかげで日々の生活や現在の自分があることへの感謝の心や、感謝するからこそ、相手のためになることをしようという実践意欲や態度。

ポイント

3 「教材の分析」

考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているかを検討します。

●実態と要因から中心的に取り上げたい場面●

チームメートから拍手が沸き起こり、主人公が深々と頭を下げた場面。

あ ら す じ

- ・野球部のキャプテンである主人公は秋の大会の初戦で負けてしまい、練習への熱意が感じられないチームメートを叱責してしまう。
- ・けがをして、しばらく野球ができなくなってしまった主人公はチームメートへの気持ちが変わっていく。
- ・夏の大会のメンバー発表の時、まだ練習に参加し始めたばかりの主人公の名前が真っ先に呼ばれ「背番号10」を渡される。チームメートから拍手が沸き起こる。

ポイント

4 「考え、議論したいこと」

「価値」「実態と要因」「教材」の分析を受け、**考え、議論したいこと**を明確にします。

● 考え、議論したいこと ●

かけがえのない他者を尊重する心や、周囲の人々の存在や支えを有り難いと感じる心を基盤とし、それに応える思いやりや感謝の心、態度が生まれることについて。

5 「ねらい」の設定

【ねらい】

利己的、自己中心的な弱さを乗り越え、相手の思いを尊重することの大切さや他者の存在の有り難さに気付き、互いの存在を尊重して感謝したり、感謝するからこそ思いやりの心で接しようとする実践意欲や態度を育てる。



6 「本時の展開の構想」

指導方法の工夫

・「発問の工夫」・「学習活動の工夫」など

	基本発問と予想される生徒の反応	指導・援助
導入	<p>1 本時の価値への方向付けをする。</p> <p>○「人を思いやる」とはどういうことでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優しい言葉をかける。 ・仲間に優しくする。手助けをする。 ・場合によっては見守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに自分が行ったり考えたりしてきた「思いやり」について交流し、本時の価値への方向付けをする。
展開前	<p>2 教材「背番号10」を読み、話し合う。</p> <p>○思うように動いてくれないチームメートに対して、僕はどのような気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしてももっとやる気を出さないのか。勝ちたくないのか。 ・悔しくないのか。イライラするな。 ・どうして真剣にやれないのか。 ・僕はこんなに声をかけているのにどうしてみんな応えてくれないのか。 <p>○「自分にできること」をし始めた僕は、チームメートに対してどのような思いになっていったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕には今、こんなことしかできない。 ・何とかチームのみんなのためになることをしよう。 ・どうしても地区ブロック大会に出たい。みんなに頑張ってもらいたい。 ・きっとみんなにも頑張る気持ちはあったのだな。僕が一方向的に強く言いすぎていたのだな。 ・僕一人で野球はできない。これまでもみんなのおかげで野球ができていたのだな。 <p>◎「深々と頭を下げた」僕はどのような思いだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ありがとう。僕がこんな風に背番号をもらって頑張れるのはみんなのおかげだ。 ・自分勝手に強いことを言いすぎてしまっておめね。そんな僕についてきてくれてありがとう。 ・まだ試合で活躍はできないけど、このみんなの拍手に応えられるように、大会でもみんなに声をかけよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公のチームメートに対する行動の中で、「素敵だな」「残念だな」と思ったところを見つけるように問いかけ、人間理解と価値理解に迫るための発問につなげる。 ・次の発問につなげたり、展開後段で思いやりや感謝を実行する時の課題と向き合えるようにしたりするために、人間のもつ弱さについて交流し、人間理解を図る。 ・自分の考えと仲間の考えを比べて考えるように問いかけ、相手の思いを尊重することの大切さや、他者の存在の有り難さに気付くようにする。 ・前の発問と比べて主人公の考え方の変化に気付くように問い返し、価値理解につなげる。 ・感謝の心や謝罪の念、仲間のことを考えた行動など、様々な価値観を整理して板書するとともに、仲間の意見についてどう思うかを問い、他者理解や、確かな自己理解を図る。 ・「深めるための補助発問」でチームメートの立場に立つことで、互いの存在を有り難く感じる心が両者にあることや、その有り難さに基づいて互いのために頑張ろうとしている気持ちについて考えていくことができるようにする。また、双方向からの感謝の心が互いの絆を強くしていることを考え、価値理解を深められるようにする。
展開後	<p>3 本時の学習を振り返る。</p> <p>○「思いやりの心をもって行動する」とき、何が大切なのかを見つめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つつい自分の思いを優先してしまうけど、みんなの気持ちも考えなくてはいけない。そもそもみんなのおかげで色々な活動ができていたことを忘れずに行動していきたい。自分もたくさんの人に助けられているから、みんなのためになることができるといい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各発問とつなげて、思いやりの心で接する時の課題を見つめながら、有り難さを感じ、相手のためになることをしようという心構えについて考えられるようにする。
終末	<p>4 教師の説話</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の存在の有り難さに気付いた体験とその後、大切にしていることについて話す。

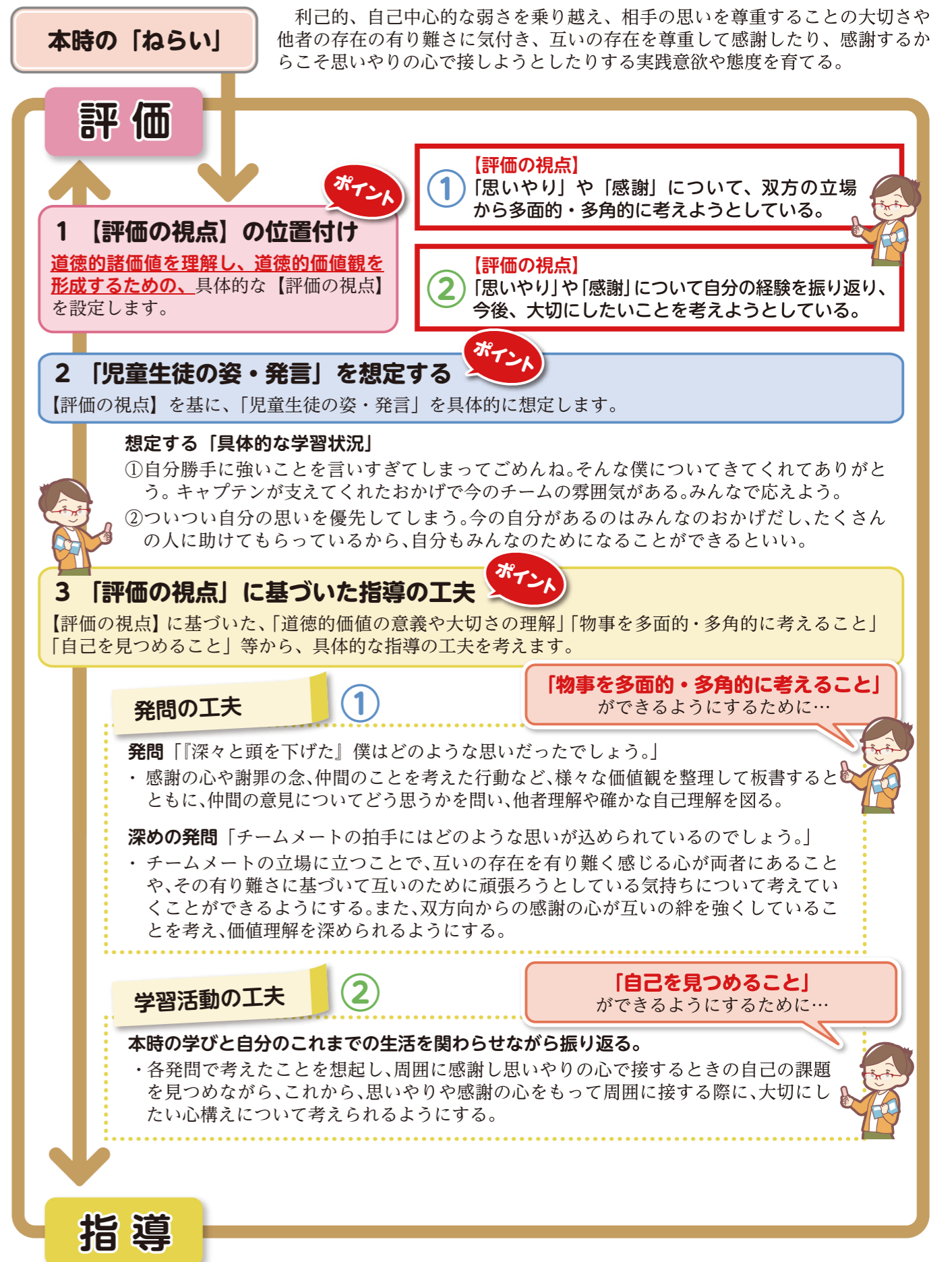
【深めるための補助発問】
 チームメートの拍手にはどのような思いが込められているのでしょうか。

- ・ありがとう。今のチームがあるのは、懸命に動いてくれたキャプテンのおかげだ。
- ・キャプテンが支えてくれたおかげで今のチームの雰囲気がある。みんなで応えよう。
- ・早くけがを治して一緒に戦おう。キャプテンの練習に付き合おうよ。

【評価の視点】
 「思いやり」や「感謝」について、双方の立場から多面的・多角的に考えようとしている。 ①

【評価の視点】
 「思いやり」や「感謝」について自分の経験を振り返り、今後、大切にしたいことを考えようとしている。 ②

指導と評価の一体化



3 道徳教育パワーアップ実践校 実践事例紹介



(1) 恵那市立長島小学校

① 研究主題について

<研究主題>

自己の生き方についての考えを深める子の育成
～学び合いを通して考えを深める道徳授業を軸として～

② 研究実践

- (1) 研究内容1 年間指導計画における目指す児童の姿の明確化
- (2) 研究内容2 生き方について学び合い、考えを深める道徳授業の在り方
- (3) 研究内容3 家庭や地域と連携し、「三学の精神 志教育」の充実

③ 研究の成果と今後の方向

- (1) 研究の成果
- (2) 今後の方向
- (3) 終わりに

(2) 美濃加茂市立東中学校

① 東中学校の研究

<研究主題>

自分を見つめ、よりよい生き方を求める生徒の育成

② 今年度の実践

- (1) 研究内容1 確かな自己理解につなぐ指導の工夫
- (2) 研究内容2 個の変容や学びの深まりを見届ける評価の工夫
- (3) 研究内容3 日常や道徳科の学習を関連させ、教育活動全体を通して道徳性を育む実践

③ 実践を振り返って



(1) 恵那市立長島小学校

1 研究主題について

恵那市立長島小学校の児童について、全国学力・学習状況調査の質問紙調査から、「自己肯定感が高いが、積極性に乏しい面がある」、「社会参加には積極的であるが、社会に貢献している意識が低い」という実態が明らかになりました。また、校内「児童アンケート」の結果から、道徳科の授業では、「教材を通して道徳的価値について理解することが重要だ」と考えており、「これまでの経験やその時の感じ方や考え方と照らし合わせながら考えを深め、自己の生き方について考えようとする意識が低い」ことが見えてきました。

そこで、「自分のよさを発揮して行動する勇気や強い意志を育むこと」、「地域や社会との関わりについての考えを深めること」を課題として掲げ、「A 希望と勇気、努力と強い意志」、「C 勤労、公共の精神」、「C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」を道徳科における重点内容項目として設定しました。

そして、「自分のよさを発揮して行動する勇気や意思を育み、自らの行動の価値についての理解を深めること」を主眼として、次のとおり研究を進めてきました。

研究主題 自己の生き方についての考えを深める子の育成 ～学び合いを通して考えを深める道徳授業を軸として～		
育みたい資質・能力		
主体性 自ら学び、 社会を生き抜く力	社会性 人とのつながりを大切に する、 豊かな心	郷土愛 ふるさとを愛し、 誇りに思う心
研究仮説 道徳科の授業において、指導方法を工夫改善し、考え・議論する場を設定し充実させることで、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深めることができるのではないか。		
研究内容1 年間指導計画における目指す児童の姿の明確化	研究内容2 生き方について学び合い、考えを深める道徳授業の在り方	研究内容3 家庭や地域と連携し、「三学の精神志教育」の充実

2 研究実践

(1) 研究内容1 年間指導計画における目指す児童の姿の明確化

別業には道徳科と他の教育活動との関連の他に、目指す児童の意識・姿を具体的に記載しています。そして、毎時間後には児童の実態や発達の段階に応じて見直しを図り、朱書きで加筆修正を加えました。また、道徳教育推進教師を中心に、月の内容項目の確認と見直しを行いました。

これらの取組が、これまで以上に道徳科と他の教育活動との関連を図り、道徳科の授業を補充・深化・統合することにつながっています。



(2) 研究内容2 生き方について学び合い、考えを深める道徳授業の在り方

長島小学校では授業改善に向け、外部講師を招いて、教員一人一人の授業力を向上させるために研修会を実施してきました。そして、授業の中で大きく3つの工夫（導入の工夫、展開の工夫、終末の工夫）を考え、実践を進めてきました。

①導入の工夫

導入では、生活に関わる実体験を問う「生活導入」と、どう思うかを問う「教材導入」の2つを、資料や児童の実態から教師が選択することで、「今の自分を見つめる」ことができるようにしました。「生活」「教材」のどちらの導入においても挙手や事前アンケート調査を活用して「今の自分を見つめる問いかけ」を行っています。

【第3学年 C勤労、公共の精神 資料名「マリーゴールド」】

単に働いた経験ではなく、「みんなで力を合わせて働いた経験」を問う事前アンケートを行い、本時ねらいとする勤労、公共の精神の内容項目に焦点化した話し合いができるようにしました。

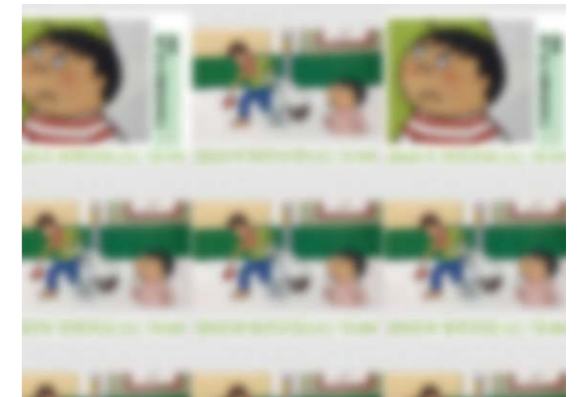
さらに、協働学習支援ツールを活用し、範読後に児童が感じたことを学級の仲間と共有することで、多様な感じ方や考え方に接することができるようにしています。



事前アンケート結果の提示

【第2学年 C勤労、公共の精神 資料名「おでこのあせ」】

児童が範読後に「あつしのしたことでいけないなあ」と考えた場面を協働学習支援ツールに入力しました。児童が感じ方や考え方に違いがあることを理解した上で話し合うことで、自分の体験をもとに考えることができ、より深く道徳的価値について理解することができました。



自分が考えた場面を協働学習支援ツールで共有

②展開の工夫（考え、議論するための指導の工夫）

児童が自分の考えをもつことができるようにするために、低学年では「登場人物の気持ちを話す活動」、高学年では「書く活動」を位置付けました。さらに一人一台端末の共有機能を活用し、仲間の考えを知ることができるようにしました。この取組が仲間の考えを意欲的に聞こうとする児童の姿につながりました。仲間と交流する際には教材の内容や目的に応じて、役割演技やペア（グループ）交流などの様々な表現活動を取り入れ、道徳的な課題を自分事として捉え、交流を通して多面的・多角的に考えを発展させられるようにしています。

また、黒板には児童の発言をネームプレートとともに位置付け、考えの変容があった場合にはネームプレートの位置を貼り替えることで、思考の可視化をしています。

・道徳的価値を自分との関わりで捉えるための役割演技

主に第1学年から第3学年において、役割演技を取り入れ、児童が考え方や感じ方を表出できることを意識しました。演技をした児童だけでなく、役割演技を見ていた児童にも考え方や感じ方の深まりを表出するために、ねらいに迫る問いかけをしました。



役割演技の様子

【第1学年 B友情、信頼 資料名「二つのことり」】

児童が「みそさざい」を、教師が「やまがら」の役を演じ、「みそさざい」の役を演じた児童にその時の気持ちを聞きました。そして、その演技を見ていた児童に「みそさざいさんややまがらさんはどんな気持ちになったかな。」「この後、どんな友達になっていくかな。」と問うことで、多くの児童が自分の考えを表出できるように工夫しました。

・実効性をもたせるための問題解決的な学習

主に、第4学年以上で取り入れています。この時に意識したことは、問題解決的な学習を目的としないことです。児童の道徳性を高めるためには、これまでも実践してきた基本的な指導過程と問題解決的な学習のどちらがより効果的かを考えて実践しています。

【第4学年 C規則の尊重 資料名「雨のバスでいりゅう所で」】

登場人物の心情について、十分に考えを深めた後に、主人公のよし子は「どこで、どうするとよかったのか」を考え、話し合いました。児童は自分の体験と関わらせながら、自分なりの考えをもち、話し合いを通して、この問題をどのように改善すべきなのか、一人一人が答えを導き出すことができました。



・道徳的価値に迫るための発問の工夫

児童の多様な考え方や感じ方を引き出し、自分の感じ方や考え方に気付かせることを大切に、発問を設定しました。特に、本時気付かせたい道徳的価値に迫る中心発問によって多様な意見が出た後に、より価値理解を深めるために、次のような内容項目の特徴を捉えた補助発問を準備しました。

内容項目	考えさせる内容・場面	補助発問、問い返しの内容等
A 主として自分自身に関する事	葛藤の中身	葛藤を引き出す どう乗り越えたのかを考えさせる
B 主として人との関わりに関する事	相手の気持ち	相手の気持ちを考えさせる 立場を変える
C 主として集団や社会との関わりに関する事	所属意識	周りにはどんな気持ちになるかを考えさせる
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事	感動場面	心が動いたところやその理由を考えさせる

【第5学年 A希望と勇気、努力と強い意志 資料名「世界最強の車いすテニスプレイヤー 国枝慎吾」】

目標の達成のためには、より高い目標を掲げ、それに向かってくじけず努力し続けることが大切だと気付く場面では、主人公の「ぼく」が国枝選手のどんな姿を通して気付き、困難を乗り越えたのかを問い返しました。このように各場面における登場人物の心情のみをとらえるのではなく、考え方が変化していく過程やその理由に目を向けさせることで、多面的・多角的に考えを深めることができるようにしています。

さらに、道徳的価値の高まりを引き出すために深めの発問として、「あなたが『なるほど』と思うのはどの意見か」を問います。そうすることで、自己の学びの変容を自覚することにつながっています。

・自己を見つめる場の工夫

本時学んだ道徳的価値から自己を見つめるための視点を与えて、これまでの生活を振り返っています。低学年では自分の「行為」を振り返り、中学年と高学年では、「行為」に加え、「その時の気持ちや考え」、「自分の課題は何か」など、発達段階に合わせて書く活動を取り入れ、児童の思考を整理しています。平仮名が定着していない1年生の段階では、イラストや写真をもとに、これまでの生活を振り返り、「できている項目」「当てはまる項目」に○を付けて自己を振り返る工夫をしました。また、低学年では場面をイメージしやすいように写真等で提示する工夫をしています。



振り返りシート (1年生用)



場面を提示した写真

③終末の工夫

終末では、深めの発問によって広がった「なるほど」「そういった考えもあるのか」という道徳的価値の理解をもとに、一人一人が道徳的価値についてより深く考え、これからの生き方を見つめることを通して実践意欲を高めることを大切にしてきました。

・日常生活とつなげる教師の説話

日ごろの生活場面とつなげる話題を扱い、あらかじめ撮影した学校生活の様子を視聴して振り返ることや、別業を活用して他の教育活動との関連を図り、児童が道徳的価値をより身近に考えられるようにしています。

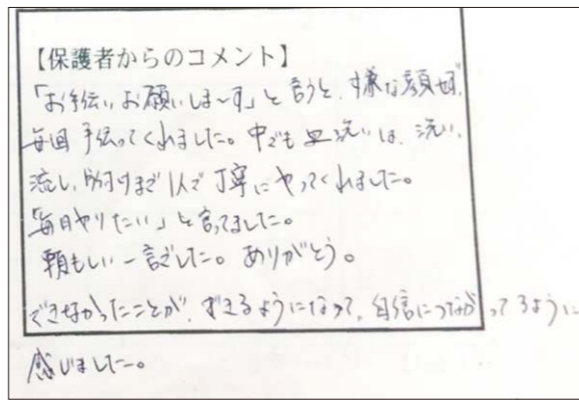
【第5学年 A希望と勇気、努力と強い意志 資料名「世界最強の車いすテニスプレイヤー 国枝慎吾」】

かけっこ教室で指導してもらった元オリンピック選手の話の話を聞きました。夢を叶えることができたオリンピック選手でも、くじけそうになった経験があることを知り、目標や夢の実現のために、うまくいかないことがあっても、くじけずに努力し続けようとする意欲が高められるようにしました。



あらかじめ撮影した動画を視聴する様子

・生き方・考え方を学ぶ保護者の言葉や地域の方のインタビュー
 一家庭一ボランティアの取組を通して得た、保護者からのコメントを活用しています。児童が「自分から掃除しなければいけない」と強く思ったことを内容項目A「希望と勇気、努力と強い意志」で、「進んで働く姿」を内容項目B「勤労、公共の精神」で紹介しました。この他にも「家族が頼もしく感じている児童の姿」を内容項目C「家族愛、家庭生活の充実」で紹介するなど、様々な内容項目と関連させました。保護者からのコメントにある「ありがとう」の言葉は「自分は誰かの役に立っている」という自己有用感を高め、学校生活や家庭生活においてさらに頑張ろうとする実践意欲を高めることにつながっています。



【第4学年 C勤労、公共の精神 資料名「琵琶湖のごみ拾い」】

保護者からの「毎日自分からお手伝いをしてくれて、すごく助かったよ。これからもよろしくね。」というメッセージを紹介すると、どの児童も嬉しそうな表情を浮かべました。

また、地域ボランティアの方のインタビューを紹介することで、学校の活動も地域の方に支えられていることを知り、自分も地域に何かできないかと考えて行動する意欲を高めています。その他にも、学校行事などから学んだことを動画で残し、それを生かした授業を工夫することで、道徳的価値のもつ意味や大切さについて深く考えられるように工夫しています。



車いすバスケット講演会（D生命の尊さ）



低学年つれさり防止教室（C規則の尊重）

・自己の変容を自覚するための事前アンケートの活用

事前アンケートを実施し、授業の導入でその結果を提示して本時の道徳的価値への意識付けとしています。その結果を再度、終末で提示することで、本時の学習を通して学んだことが自覚できるようにしています。

【第6学年 C家族愛、家庭生活の充実 資料名「ぼくの名前呼んで」】

児童と保護者のそれぞれに「家族と過ごす中でうれしかったことはありますか。」という事前アンケートを取りました。ほとんどの児童が「いつもご飯を作ってくれる。」「上手にできた時に褒めてくれる。」など、家族が自分のためにしてくれる行為について回答しました。多くの保護者からは「発表会で自信をもって話す姿に成長を感じ嬉しかったです。」「また今年も無事に子どもの誕生日を迎えられたことをうれしく思います。」など、子どもの成長に喜びを感じていることがわかる回答がありました。



保護者アンケートを見返す様子

(3) 研究内容3 家庭や地域と連携し、「三学の精神 志教育」の充実

長島小学校では、道徳教育を充実させる一環として、別葉を活用しながら、学校運営協議会の協力のもと、家庭や地域との連携を大切にしてきました。

①学校林を活用した「学林活動」

- ①ふるさとを愛する心を育む
- ②歴史を学ぶ中で次世代に送る願いや思いを知る
- ③地域の方の思いに触れ、学校や地域について共に考える

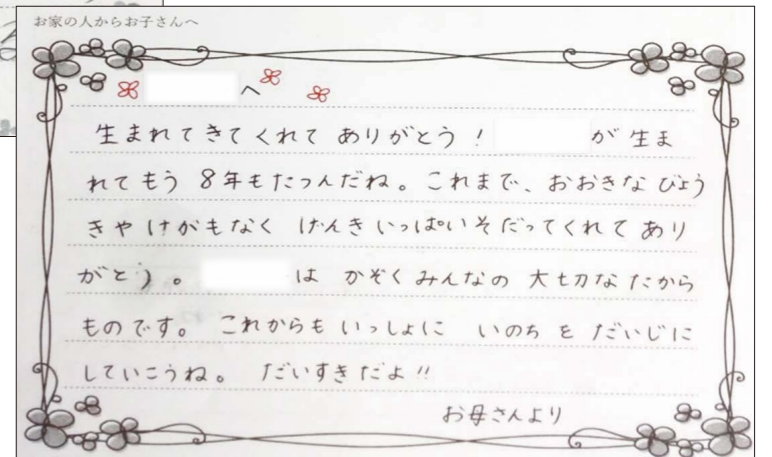
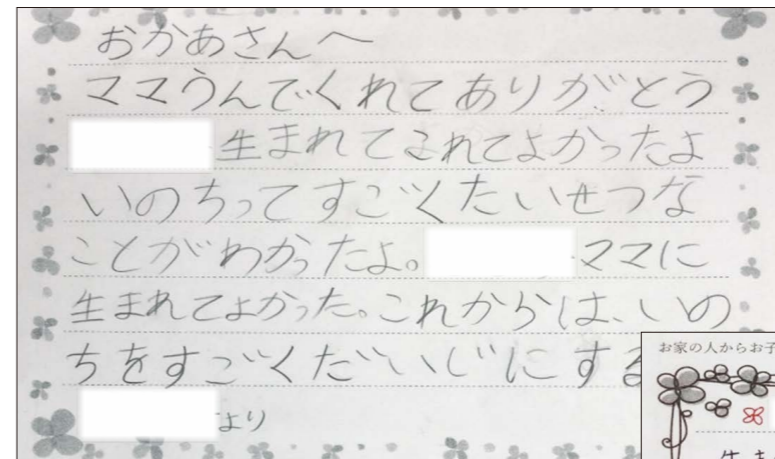
の3点について、学校運営協議会と目的を共有し、地域の方から学び、地域の方との関わりを深めています。「地域や社会との関わりについての考えを深める」ことで、活動を通して地域への誇りをもつことにつながる意識をもち、共に連携して進めてきました。また、家庭や地域との連携において、「子どもたちを地域全体で育てるという当事者意識」を双方がもって実践するために、「主体的な判断をすること」や「自分の考えやよさに自信をもつこと」など道徳教育の目標として掲げる「自己の生き方」を考える力を育みたいという共通の願いを通信や懇談会等で伝え続け、地域の人的、物的財産を生かした道徳教育を進めています。



②「いのちの教育」の充実を図る取組

長島小学校では、毎年、「いのちの授業」を行っており、今年度は獣医師を講師に招き、一人に一つしかない命の大切さについて学びました。

いのちの授業後には、親子で命について話し合う場を設け、互いに手紙を書き合うことで、児童は自分の命に対する保護者の思いを知り、自分が本当に大切にされていることを実感しました。このことが自分の命を大切にしようとするとともに、自分にできる精一杯の生き方をしようとする心情を養うことにつながりました。



さらに、命の集会では、各家庭からの「いのちの授業」に対するメッセージを通して、命について考えを深めました。様々な家庭からのメッセージを聞くことで、多様な考えに触れることができ、自己を見つめ直し、考えを深めることができました。



お家の人から

全ての生き物には命がある。その命がうまれるには親があり、家族があることを改めて考えることができ親子でいい時間を過ごしました。食べ物を粗末にしないこと、いろんな人に対して思いやりを持ち、持ちで接することを親子(家族)で話し合うことができました。ありがとうございました。

令和5年8月には学校で飼育していたウサギが死んでしまいました。ある児童は「いのちの授業」で学んだ「命は一つしかない」という生命のもつ有限性を実感し、「死んだウサギの分まで頑張って生きよう」という思いをもち、この思いを全校放送で伝えました。放送を聞いた多くの児童がウサギの写真に手を合わせ、自他の命を大切にするために自分にできることを考えました。



3 研究の成果と今後の方向

(1) 研究の成果

令和4年度から「考え、議論する」道徳科の授業の「導入」「展開」「終末」で大切にすることを職員で共通理解してきました。そして、児童が授業で学んだことを自分たちの生活と結び付けていける道徳科の授業を全職員で目指し、各研究実践を通して授業改善をしてきました。その結果、次の3点の成果がありました。

【成果①】

道徳的価値を自分との関わりで捉え、これまでの自分の経験と照らし合わせながら考えを深め、自己の生き方について考えることができた。

「難しいことでも失敗を恐れず、挑戦している」児童の割合 (児童アンケートより)

(令和3年度) 57.1% → (令和5年度) 82.7%



【成果②】

道徳性を育む活動や体験と道徳授業を結び、保護者や地域の方の生き方を学ぶことで、これからの生活をよりよくしようとする意欲を高めることができた。

「地域や社会をよくするために何かをしたい」と考えている児童の割合 (児童アンケートより)

(令和3年度) 49.0% → (令和5年度) 72.0%



児童アンケートの結果からも「自己肯定感が高いが、積極性に乏しい面がある」「社会参加には積極的であるが、社会に貢献している意識が低い」という本校の課題が改善傾向にあることが分かります。

【成果③】

これまで以上に児童の自己肯定感を高め、いのちの大切さを知り、夢や希望を育むことができた。

道徳の授業では、家の人や地域の方からのメッセージを紹介してきました。このことについて、思ったことや学んだことを書いてください。(児童アンケートより)

- ・一家庭一ボランティアで家の人のお話を聞いて心が温かくなった。これからも続けていきたい。
- ・「ありがとう」と言われて、とても心が温まった。
- ・動物病院の先生の話や家の人の手紙を読んで、いのちを大切にしようと思った。
- ・地域の方の気持ちを知って、助け合っていきたいと思った。

これまで朝の会や帰りの会での「よいことみつけ」の活動を通して、児童が互いのよさを見つけ、認め合う活動を行ってきましたが、家庭や地域の大人からも認められることで、児童がこれまで以上に自己肯定感を高め、夢や希望をもつことができました。また、いのちの大切さについても、表面的な理解にとどまることなく、より実感を伴った理解を図ることができました。

(2) 今後の方向

これまでの研究実践により、教師の意図が明確になり、指導が具体的になったため、児童の姿や心に大きな成長が見られました。今後、さらに児童が心身ともに成長するために、次の2点を意識していきたいと考えています。

- ・道徳科の授業で学んだ価値について、児童の様子を見届け、価値付ける事後指導を工夫すること。
- ・家庭や地域とのさらなる意図的、継続的な連携を図ること。

(3) 終わりに

私たちは文部科学省・岐阜県教育委員会の「道徳教育地域支援事業」の指定を受け、研究実践に取り組み始めましたが、この取組は道徳科の授業改善のみにとどまらず、家庭や地域とこれまで以上に連携を図ることにつながり、その結果、児童の日常生活もより充実してきました。

あなたにとって「道徳」は、どんな授業ですか。(児童アンケートより)

- ・人の気持ちを考え、自分だったらどうするかを考える授業
- ・あの時どうすればよかったのか、もし自分が同じ立場だったらどうするのかと自分と重ね合わせて考えられる授業
- ・友達の考えを聞いて、自分の考えと比べて、どのように生活すればよいのかを考え、行動ができるようになる授業
- ・自分のこれまでの生活を振り返って、これからの生活をどうすればよいのかを考える授業

道徳科の授業に対するアンケートには、以前よりも、「自分だったら」「自分の考えと比べて」という言葉が多くなりました。「自分ならどうするか」という視点で仲間の考えと比べて、道徳的価値と向き合おうとする意識が高くなってきたと言えます。このアンケートで最も多かった記述は「自分のこれまでの生活を振り返って、これからの生活をどうすればよいのかを考える授業」です。このことから、自己の生き方について考えようとする意識が高まってきたことが分かります。

今後も「児童の心を耕し、花咲かす」ことができる長島小学校であり続けるために、日々、実践を重ねていきたいと思えます。



(2) 美濃加茂市立東中学校

1 東中学校の研究

研究主題は、昨年度から継続して、以下のように掲げました。

【研究主題】 自分を見つめ、よりよい生き方を求める生徒の育成

そして、研究内容は、下記のように整理して実践に取り組みました。

- (1) 研究内容1 確かな自己理解につなぐ指導の工夫
- (2) 研究内容2 個の変容や学びの深まりを見届ける評価の工夫
- (3) 研究内容3 日常や道徳科の学習を関連させ、教育活動全体を通して道徳性を育む実践の実施

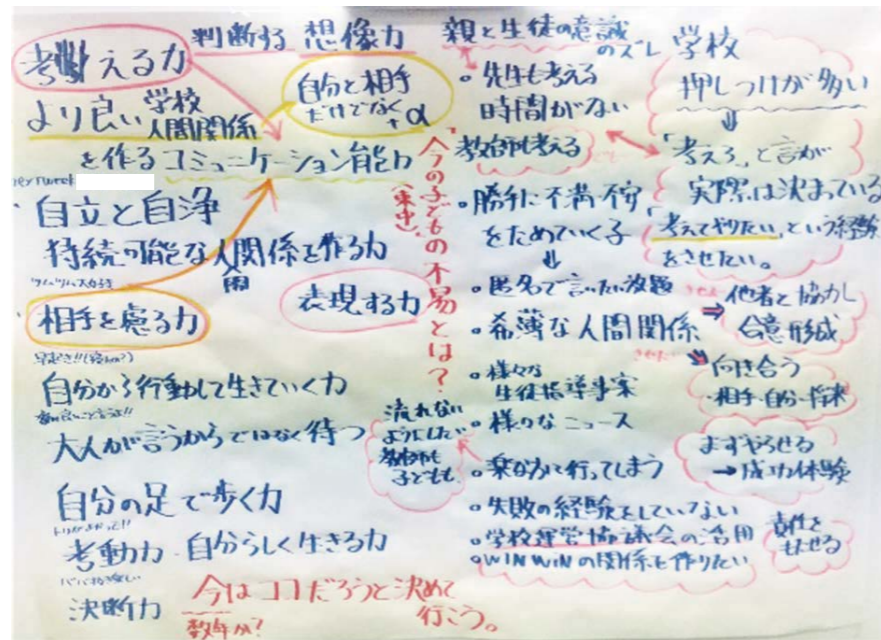
令和4年度より道徳教育の実践に取り組む中で、生徒の実態を把握するために「道徳アンケート」を実施しました。令和4年4月と令和5年1月にアンケートを行った結果から「自分自身のよさに気付くこと」と「地域や社会の課題を自分に引き寄せて考え、関わっていかうとすること」が学校課題であると考えました。

また、年度初めに全教職員で「東中学校の生徒に付けたい力とは」について話し合い、「付けたい力」を明らかにし、教職員間で共有しました。

「道徳アンケート」で捉えた学校課題と、教職員が考える「付けたい力」を踏まえ、改めて、生徒が自分や自分の生き方と向き合い、他者や社会との関係の中でよりよく生きていこうとする力が重要であると捉えました。

そこで、研究主題のもと、今年度は研究内容1,2の道徳科の実践を継続しつつ、さらに研究内容3において、日常や道徳科の学習を関連させ、教育活動全体で道徳教育を進めていくために、研究組織も見直しました。

下図のように、研究推進委員会が中心となり、各学年部と生活・学習・特活の各指導部が連携できるようにし、組織としても道徳科を要とし、教育活動全体で道徳教育が実践できる体制をつくり、研究を進めました。



【全職員で考えた「付けたい力」】



【研究組織図】

2 今年度の実践

(1) 研究内容1 確かな自己理解につなぐ指導の工夫

①教材の範読を聞く視点の提示

授業実践1 2年生 内容項目：自主、自律、自由と責任 教材名：カラカラカラ

生徒が発問に対して主体的に考えられるようにするために、教材の範読前に、どのようなことを意識して聞くといのかを示しました。視点を示すことで、考えたいという思いと発問がつながり、生徒が主体的に考える姿が生まれました。

【例：人間理解を意図して主人公の気持ちを問う】

発問：「『どうかしたか。』と登に言われたときの達也はどんな気持ちだったのか。」

範読を聞く視点
主人公のことが「分かるな。」と思うところ

②確かな人間理解、他者理解、価値理解、自己理解をして、考えを深めることができる発問の工夫

授業実践2 3年生 内容項目：思いやり、感謝 教材名：背番号10

授業に臨むにあたり、まず、発問に対して予想される生徒の意見にはどのような心情や価値観が込められてくるかを想定し、生徒の言葉に込められた心情や価値観を問い返す補助発問を考えました。それにより、生徒は自分と仲間の考えを比較し、他者理解から確かな自己理解へとつながられるようになりました。

発問：「『僕』は、思ったように動いてくれないチームメートのことをどう思ったのだろう。」

例えば、左のように発問した時の生徒の意見で考えます。同じことを言っているBさん、Cさんに対して「その言葉の裏にはどんな気持ちがあるの。」あるいは「あなたの気持ちは誰に似ているの。」と補助発問を想定します。

そうすれば、例えばBさんはAさんに近い「怒り」の心情があり、CさんはDさんに近い「悲しみ」の心情があることが明らかにできます。

Aさん：「僕はこんなに頑張っているのに…。」
Bさん、Cさん：「なんで応えてくれないんだ。」
Dさん：「キャプテンの仕事をやりたいくない。」

補助発問：「その言葉の裏にはどんな気持ちがあるの。」

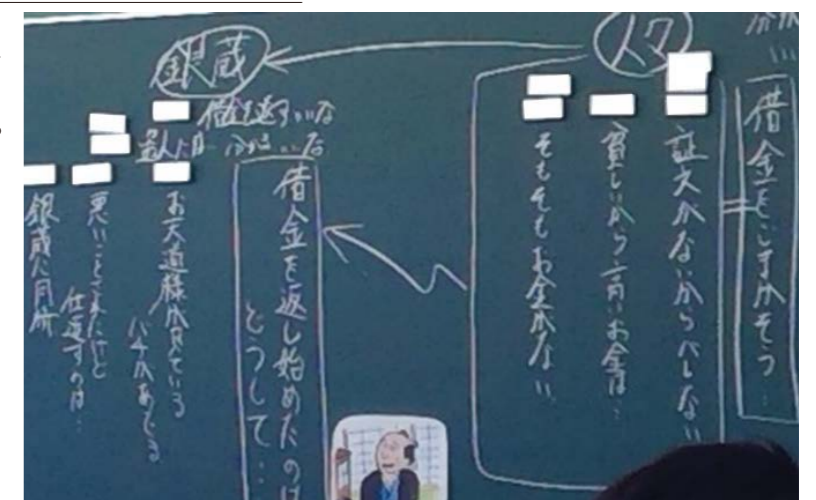
Aさん：「僕はこんなに頑張っているのに…。」
Bさん：「なんで応えてくれないんだ。怒り」

Dさん：「キャプテンの仕事をやりたいくない。」
Cさん：「なんで応えてくれないんだ。悲しみ」

③ネームプレートの活用等、考え方や感じ方の整理と工夫（構造化）

授業実践3 1年生 内容項目：遵法精神、公德心 教材名：仏の銀蔵

他者理解を進めながら考えを深められるように、価値観の違いや、考え方や感じ方の変化を分かりやすく整理して板書しました。その際、ネームプレートも活用して自分と仲間の考えや感じ方が似ているのか違うのかに気付けるようにしました。



【板書とネームプレート】

板書における考え方や感じ方の整理とネームプレートの活用により、生徒の他者理解や自己理解を深めることができました。

また、発言すること自体や、自分の考えを言語化することが苦手な生徒に対して、「どの考えに近い？」と問いかけることで、一人一人が自分の考えを安心して表出できるようになりました。

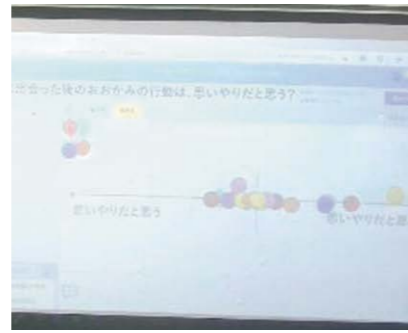
④道徳的価値を自分と関わらせて捉え、確かな自己理解につなげる展開の工夫

確かな自己理解につなげるために、役割演技を取り入れたりICTを活用し、ポジショニング機能を使ったりしました。それにより、心の揺らぎを感じたり、自分と仲間の考え方や感じ方の違い、その変化を視覚的に捉えたりできるようになりました。

これらの発問や板書の工夫を中心とし、確かな自己理解につなぐことによって、他者との関係の中で、よりよい自分の生き方を考えていこうとするようになりました。



【役割演技】

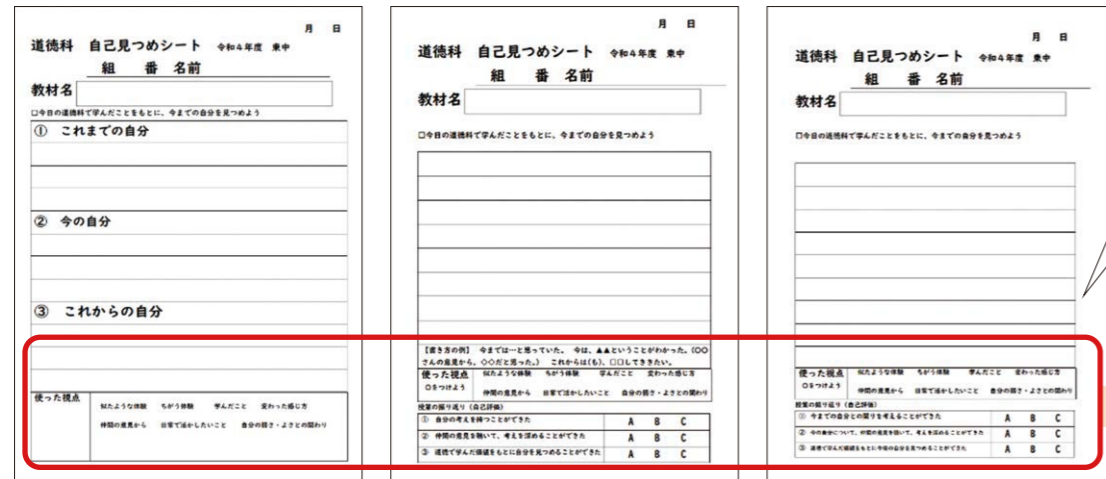


【ポジショニング】

(2) 研究内容2 個の変容や学びの深まりを見届ける評価の工夫

振り返りの視点を明確にした振り返りシートの活用

振り返りの視点を明確にし、全校で統一して使用できる「振り返りシート」を作成しました。



【振り返りシート】

プリントの下部には「使った視点」を振り返る欄や、「自己評価」の欄があり、学習状況を生徒が振り返ることができる。

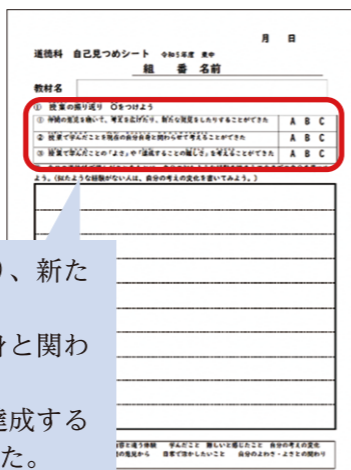
振り返りシートは、生徒の実態に合わせて自己見つけができるように、項目ごとに書いたり、書き方の例を提示したりできるものなど、3種類を作成しました。さらに、研究会で生徒の様子を交流する中で、書くことに難しさを感じている姿が明らかになりました。

- ・日本語が苦手、振り返りを書くことが難しい外国籍の生徒がいる。
- ・自分の思いを文章でうまく表現することを苦手とする生徒がいる。

このことを踏まえ、誰もが自分の学習状況を振り返り、本時の授業を通して考えたことを想起し、その上で自己の考えを振り返るシートを作成し、生徒の実態に応じて活用しました。このシートを基に、教師は個々の変容や学びの深まりを見届け、評価に役立てることができるようになりました。

- ① 仲間の意見を聴いて考えを広げたり、新たな発見をしたりすることができた。
- ② 授業で学んだことを現在の自分自身と関わらせて考えることができた。
- ③ 授業で学んだことの「よさ」や「達成することの難しさ」を考えることができた。

【見直した振り返りシート】



(3) 研究内容3 日常や道徳科の学習を関連させ、教育活動全体を通して道徳性を育む実践の実施

学校課題を解決し、生徒に「付けたい力」を育てていくためには、道徳科の授業で学んだことを日常生活と関わらせていくことが大切だと考え、以下の3点に取り組みました。

①他教科や特別活動で内容項目を意識して指導するための別葉の作成

教育活動全体で道徳教育をより一層推進していくために、別葉の様式を工夫し作成しました。

教材、時期、内容項目に関係する学校行事などの特別活動に加え、さらに「教師の担当教科」を書き込む欄を設けました。こうすることで、教師一人一人が自分の立場から内容項目と関わらせて教科指導を行えるようにしました。

教師は自分の別葉を見て指導に当たり、計画の意図を大切に、実践しながら修正を行い、また来年度に引き継ぎます。

内容項目	(月)	道徳(資料名)	(月)	学校行事・学年行事	教科「国語」
(1) 自主、自律、自由と責任	4	許せないよね 6カラカラカラ	9	鎌島校外学習	
(2) 節度、節制	6	夢中になるのは悪いこと?	7	情報モラル講話	
(3) 向上心、個性の伸長	10	嫌われるのを恐れる気持ち 11やさしさの光線	5	体力テスト	
(4) 希望と勇気、克己と強い意志	5	夢の力	5	夢教室 6.11期末テスト	
(5) 真理の探究、創造	11	スカイツリーにかけた夢			モアイは語る
(6) 思いやり、感謝	10	気づかなかったこと			
(7) 礼儀	9	秀さんの心			
(8) 友情、信頼	7	松葉つえ 10立いた赤鬼	10	団結祭	走れメロス
(9) 相互理解、寛容	6	6ジコチュウ 11桃太郎の鬼退治	6	学年レク 9鎌島校外学習	君は「最後の晚餐」を知っているか
(10) 遵法精神、公徳心	9	民主主義と多数決の近くて遠い関係			
(11) 公正、公平、社会正義	5	5明日みんなで着よう 12クロスプレー	6	学年レク 12合唱祭	
(12) 社会参画、公共の精神	12	12昔話法廷「浦島太郎」			
(13) 勤労	11	11段ボールベッドへの思い	9	9就労講話 12大掃除	職業ガイドを作る
(14) 家族愛、家庭生活の充実	5	5一冊のノート			字のない葉書
(15) よりよい学校生活、集団生活の充実	4	4テニスの危機	7	7財産発表会	盆土産 枕草子・短歌に親しむ 平家物語・文法 漢詩の風景
(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度					
(17) 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	9	9一枚の布から			
(18) 国際理解、国際貢献					
(19) 生命の尊さ			5	5.9命を守る訓練	
(20) 自然愛護	10	10僕の仕事場は富士山です	9	9鎌島校外学習	クマゼミ増加の原因を探
(21) 感動、畏敬の念					
(22) よりよく生きる喜び	9	9あと一歩だけ、前に			アイスプラネット 走れメロス

【別葉】

②道徳的価値を意識した教育活動の実施

例えば体育大会では、「よりよい学校生活、集団生活の充実」と「友情、信頼」など、様々な内容項目との関わりがあります。生徒の実態に応じ、学級担任が「よりよい学校生活、集団生活の充実」と「相互理解、寛容」を重点的に考え、次のような活動の場を設定し実践しました。

C- (15) よりよい学校生活、集団生活の充実

- ・学級としてどんな姿を目指すのか、何を大切にしているのかを話し合う場を設定する。
- ・練習で頑張っている仲間の思いを学級で共有する場を設定する。

…など

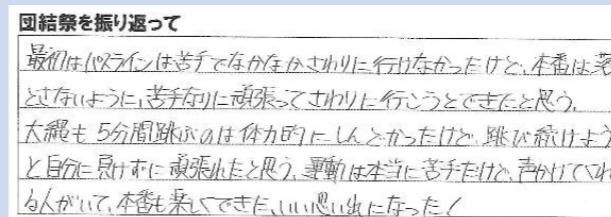
B- (9) 相互理解、寛容

- ・練習で頑張っている仲間のよさを交流する場を設定する。
- ・活動に苦手意識をもっている仲間に対しての声かけや仲間との関わりについて、練習後に振り返る場を設定する。

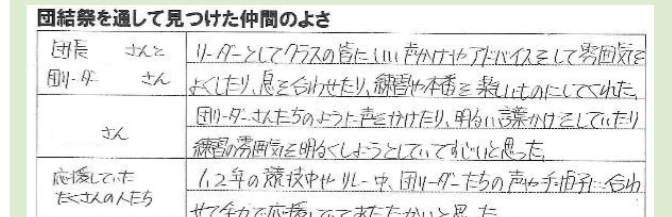
…など

活動後の振り返り用紙には、これらの内容項目に焦点を当てて振り返ることができる項目を取り入れました。

「学級のために頑張ったこと」



「全校や学級の仲間のよさみつけ」



【振り返り用紙】

3 実践を振り返って

2年間の実践では、まず教師が課題と感じていた道徳科の授業改善に取り組み、「考え、議論する道徳」への転換を図りました。

板書、発問、問い返しなど、講師を招いて指導を受けたり、学年部で指導案を検討したりしながら「考え、議論する道徳」の授業実践を重ねていきました。

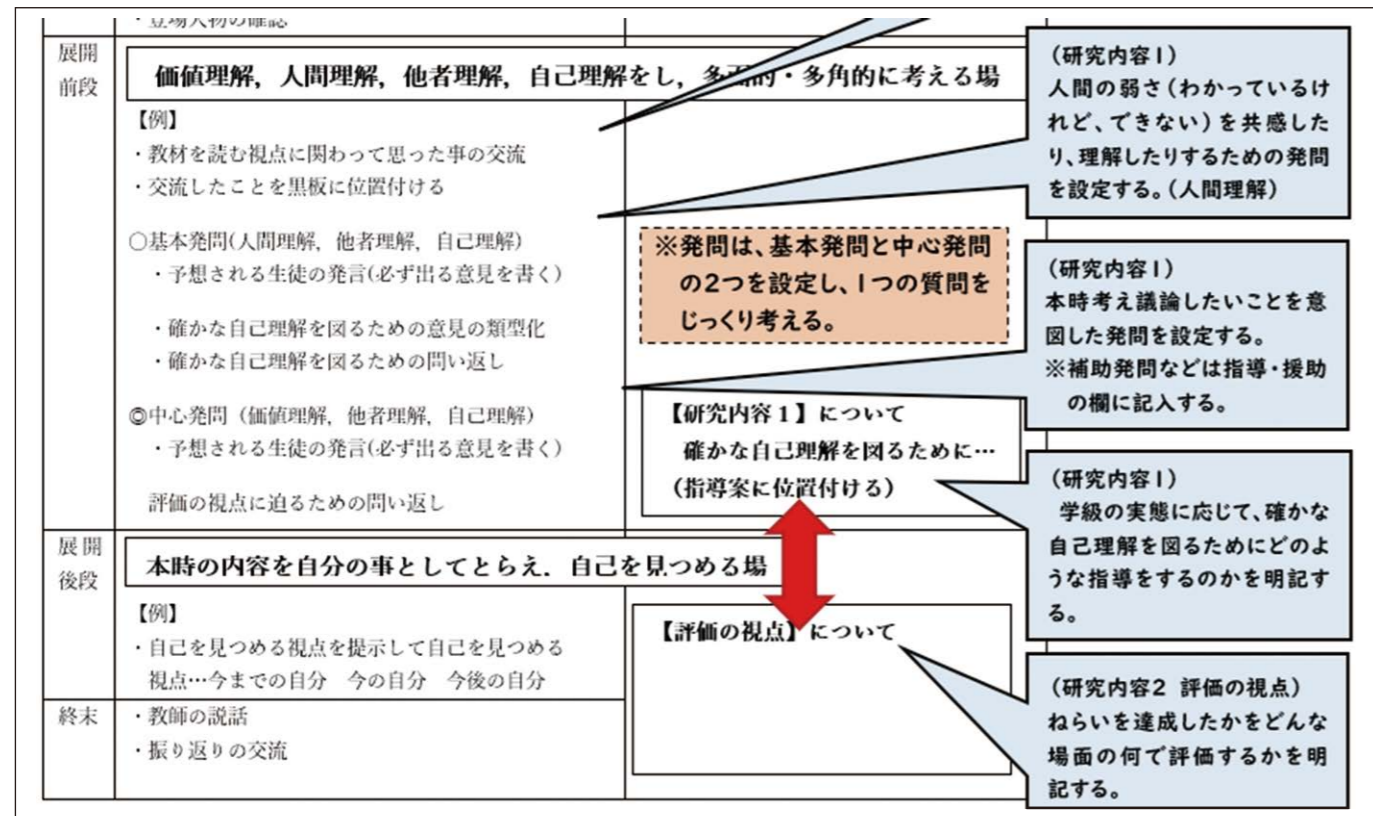
その中で、日常的な営みである道徳科の授業の質が向上し、生徒にとっても教師にとっても「考え、議論する道徳」に自信がもてるようになっていきました。

実践を積み重ねる中で、指導案の型や書き方も研究推進委員会から提案し、全教職員で「考え、議論する道徳」についての理解を深めることができました。確かな自己理解へつなぐ指導の充実や振り返りシートの作成は、生徒が自分を見つめ、生き方について考えていくことに有効でした。

特に、研究内容3の実践を通して生徒が自分の生き方と向き合い、他者や社会との関係の中でよりよく生きていこうとする力を育むことができました。



【指導改善のための職員研修】



【指導案の作成について】

道徳科で学んだ内容項目と意図的に関わらせた振り返りや、生徒会と連携して内容項目と関連付けたよさみつけ活動を行ったことによって、生徒は道徳科の授業を通して培った道徳的価値観を自分の日常生活と結び付けて見つめ直すことや、日常生活を内容項目と関わらせて多面的、多角的に振り返ったりすることができました。また、このように日常を振り返ることは、その後の道徳科の授業の中でも、自分の体験活動の活用や多面的・多角的な考え方に関わっていきます。こうしたサイクルを生み出したことは、生徒の道徳性を養うことにつながっており、大きな成果となりました。

研究内容3で紹介したように、内容項目と関わらせ、仲間から見つけてもらったよさは、自己肯定感や自己有用感を育むことにつながりました。様々な内容項目と関わらせて他者からの評価を受けたり、自分を振り返ったりしてきたことで、多様な道徳的価値観が形成され、社会や地域の出来事に関心が広がり、自分から関わっていかう姿にもつながりました。学校課題として挙げた「自分自身のよさに気付くこと」と「地域や社会の課題を自分に引き寄せて考え、関わっていかうこと」や、全教職員で考えた「生徒に付けたい力」にも成果がありました。

2年間の実践を基に、今後も生徒の道徳性を養うため、「考え、議論する道徳」を要とした道徳教育の推進に取り組んでいきます。

情報提供

(1) 文部科学省 「道徳教育アーカイブ」



文部科学省「道徳教育アーカイブ」 URL : <https://doutoku.mext.go.jp/>

(2) 岐阜県教育委員会HP「ぎふっこ学び応援サイト」 「豊かな心を育む」(教員用のページ内)

「豊かな心を育む」道徳教育

記事ID : 0191743 2023年3月10日更新 〰️ 義務教育課 〰️ 印刷ページ表示 〰️ 大きな文字で印刷ページ表示

道徳教育指導資料 豊かな心を育む道徳教育

令和4年度 「成長を実感し、意欲の向上につながる道徳科の評価」

〰️ 表紙等 [PDFファイル/1.28MB]

〰️ 本文 [PDFファイル/25.87MB]



岐阜県教育委員会HP「ぎふっこ学び応援サイト」 URL : <https://www.pref.gifu.lg.jp/page/191743.html>

『豊かな心をはぐくむ』 一家庭一ボランティア運動

ボランティア運動中の
「ありがとう」の言葉に対する喜びが
「明日もがんばろう!」という希望につながります。

夢・希望

自信

ボランティア運動を通して得られる
「自分にはよいところがある」という実感が、
自信の高まりにつながります。

ボランティア運動での
人と人とのあたたかいつながりが、
自分も相手も大切にしようとする心を育みます。

命

「一家庭一ボランティア」運動の例

- 家族と一緒にごみ拾い
- 学校でのあいさつ活動
- 友だちと協力して地域行事の準備
- 家庭でのお手伝い
- 学校や地域での花づくり
- 地域の方と協力して地域の清掃活動
など